

# リつめい

題字・末田 博名 博名館長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

NO.  
243

2011  
JANUARY

巻頭企画

110年の歴史を経て世代を超えて  
家族に受け継がれる立命魂

Brilliance

輝くひと

75

古き美しさが残る  
日本有数の島を守りたい  
おちかアイランドツーリズム  
高砂 樹史 さん(89歳)

03 巻頭企画

## 110年の歴史を経て世代を超えて 家族に受け継がれる立命魂



01 輝くひと

高砂樹史 さん

10 Ritsumei Interview

高松丸亀町商店街振興組合  
理事長 古川康造 さん



14 校友会長を訪ねて

広島県校友会会長 伊藤利彦 さん  
タイ王国校友会会長 加賀美長稔 さん

16 オール立命館校友大会 IN 福岡開催報告

18 校友会ネットワーク

20 校友News

21 +Rな人

22 立命館の研究者たち

24 学生のスポーツ&イベント

26 キャンパストピックス

30 INFORMATION

31 編集室から

表紙の人



おちかアイランドツーリズム  
高砂樹史 さん (89法)

### 古き美しさが残る 日本有数の島を守りたい

長崎県にある人口3000人の島の再生に向けて、一人の大柄な男が動いた。人口減少などの問題に正面から立ち向かい、新たな事業や雇用を生み出している。「こんなに美しい島は、日本にはほとんど残っていない。だから守りたい」。力強い目で未来を見据える。

五島列島北部にある小値賀（おちか）島は、豊かな恵みをもたらす美しい自然が特徴で、素朴で親しみやすい住民も魅力だ。高砂さんは仲間と立ち上げた「おちかアイランドツーリズム」で、子どもをはじめ、社会人も対象にした「自然体験活動ツアー」を企画。ユニークな内容が受けて年間1万人が訪れるなど、少しずつ島が賑わいを取り戻し始めた。

大学卒業後、劇団員として活躍。全国各地を巡回し、舞台上で生きながら自分の住む理想の地を探し求めるなか、小値賀島に出合った。その美しさに一目惚れし2004年、奈良県から家族とともに移り住んだ。「島は毎年、100人近い人が減っている。このままではもたないと思いました」。小値賀島は全国でも有数の人口減少が加速する地域で、高齢者率も40%を超えている。「とにかく島を守りたい。それだけです」。深刻な問題の緩和に向け、島の観光地化に取り組んだ。

小値賀島には温泉などの観光資源はないが、島の人々の温かさという“財産”があった。その力を活かし、子どもが民家に泊まり、島の生活を体験する「民泊」というプランを実現。野菜の収穫など、都会ではできないことが経験できると人気呼び、観光客は年々増加、2009年には1万人を記録した。さらに、2010年からは住む人がいなくなった古民家を宿泊施設やレストランに変身させる事業も始め、新たな雇用も生んでいる。

“素人”が観光事業に携わるとあって、当初は島民にも不安があったが、今は高砂さんを支持している。「島の未来が懸かっている。主役である島の皆さんと協力して活気をもたらしたい。そして、島を守るために50人規模の新たな雇用を生み出したい」。

島の素晴らしさを後世に残すことを使命とする。「校友の皆様にもぜひ、この島の素晴らしさを体感してもらいたい。古き良き日本が、ここには残っています」と、宿へと変身した古民家の前で目を輝かせる。座右の銘は高杉晋作の名言「おもしろきこともなき世をおもしろく」。前途多難だが、だからこそ島の“救世主”の血は騒ぐ。その視線の先には、島の人たちとの協力によって生まれ変わった未来の小値賀の姿がある。

<http://www.ojikajima.jp/>

(写真・小幡豊 文・山口起儀)





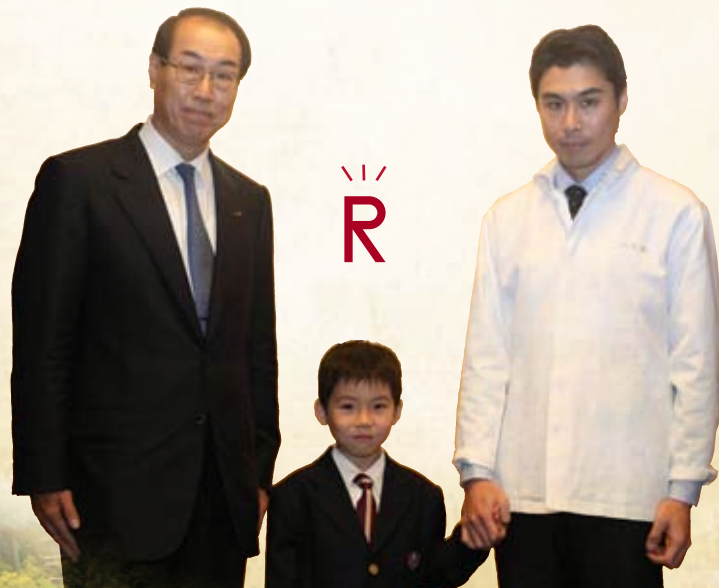
110年の歴史を経て  
世代を超えて家族に受け継がれる

# 立 命 魂

Spirits of  
Ritsumeikan

2010年は、学祖・西園寺公望が私塾「立命館」を創始してから140年、中川小十郎が立命館大学の前身「私立京都法政学校」を創立してから110周年、国際大学・立命館アジア太平洋大学（APU）の開学から10周年にあたります。校友一人ひとりの足跡が刻まれている110年という歴史を経て、様々な分野で校友が活躍しています。そして、家族でつながる立命館ファミリーも増え、「立命魂」が世代を超えて引き継がれています。

節目の年である2010年度に、校友の皆様にはあらためて「立命館でよかった」と感じていただきたいと思えます。



# 家族でつながる立命館校友

「未来を信じ、未来に生きる」が家訓



佐竹力総さん

佐竹翔一君

佐竹洋治さん

## 3世代でつながる立命館ファミリー

佐竹力総さん（'70法、京懐石美濃吉十代目当主）  
二男 佐竹洋治さん（'97経済、京懐石美濃吉調理総支配人）  
孫 佐竹翔一君（立命館小学校1年生）

佐竹力総さんは立命館高校、大学の出身で、二男洋治さんは立命館中学、高校、大学を卒業。加えて、孫の翔一君も2010年度から立命館小学校に通っている。佐竹家では料理の伝統とともに、立命館の魂も受け継がれている。

**立** 魂の世代、私の立命館のイメージは、高校では自由、のびのび感、大学では質実剛健、反骨精神、ともに貴重な体験でした。現在、学園の評議員や校友会監事など、卒業後も立命館との付き合いが続いています。そんな私の背中をずっと見ていたからでしょうか。息子の洋治は自ら「立命館に行きたい」と志願し、中学、高校、大学と10年間、お世話になりました。立命館の自由で開放的な環境のもと、特に自立心を育ててきたと感じています。また、洋治は年数回、立命館高校と立命館宇治高校で料理に関する授業を受け持っていますが、自分の後輩で、息子の先輩でもある生徒を教えることにやりがいを感じているようです。

そして、孫の翔一も立命館の仲間入りです。今は漢字が好きで、まちを歩いて字を見つけると「おじいちゃん、あれは立命館の『立』という字やで」などと教えてくれます。素晴らしい小学校と聞いていますので将来が楽しみです。

私は末川博先生（立命館名誉総長）の「未来を信じ、未来に生きる」の言葉が好きで、今も未来を信じて生きています。この言葉は我が家の伝統として受け継いでいこうと思っています。そして、京都を代表する大学として、立命館にはこれからも進化し続けてほしい。「進化こそが立命の伝統」だと私は思うのです。

## 世界で戦うその背中は親父譲りのエンジ色

### サッカー日本代表選手と父親の立命館親子

松井一雄さん（'70経済、まつ井茶道具店店主）  
長男 松井大輔さん（'02経営入学、ロシア・プレミアリーグFCトム・トムスク所属）

2010年のサッカーW杯で活躍した松井大輔さんの父親は校友の松井一雄さん。息子には、立命館を通じて得たあらゆるものを取り入れて指導してきたという。

**エ** ンジの「R」のユニフォームに憧れて立命館に進学し、陸上競技部に入部しました。卒業後もOB会と関わっており、そのせいか、息子の目には立命館が特別に映ったのではないのでしょうか。大輔は高校卒業後の2000年に京都パープルサンガ（現京都サンガF.C.）に入団しましたが、親として、嬉しさの一方で、プロでやれるかどうかの不安がありました。実のところ、立命館大学に進学してほしかったというのが本音です。そんな中、社会人推薦入学のことで知り、息子に勧めると、受験したい、と。言葉には出さなかったが、息子は私を見て立命館を選んでくれたのだと思います。



松井一雄さん

プロの厳しい練習と学業の両立は本当に厳しかったようです。フランスのチームへの移籍により、残念ながら中退となりましたが、チャンスがあればまた立命に戻り、学びたいとも言っていました。立命館の110年という長い伝統を経て、私がついて、そして大輔がいます。私の背中はおそらく、エンジ色に染まっているでしょう。そして、同じ門をくぐった息子の背中にも、少なからずその色は染み通っていると思います。これからも立命館の重みを背中に掲げてプレーし続ける息子への温かいご声援をお願いいたします。



アテネ五輪の日本代表時の社行会にて  
（左から大輔さん、一雄さん、母美幸さん）

シンガーソングライターの中田雅史さんの父仁史さんは、いずれも立命館出身である姉直美さん、妹美和さんとともに、全国で活動する雅史さんを支えている。

**北** 海道から立命館に進学しましたが「古きものを大切に育てていく」ということを京都、そして立命館で学びました。立命館には学んだ者にしかわからない魅力がありますから「子どももぜひ立命館へ」と考えていました。子どもは3人も立命館慶祥高校に進学しました。直美は高校と大学でユニークな仲間たちと過ごす中で、視野が広がったと話しています。また、私が立命館出身という安心感もあるようで、今は一緒に校友会のイベントに参加することもあります。



学生時代、バドミントンに打ち込んでいた仁史さん（右）はその道に進むことを決意したのでしょうか。これからは立命館校友であることを誇りに歌い続けてほしいです。

二女の美和も2人の姉弟を見て立命館に憧れたようです。現在、米国のバブソン大学に留学中ですが、立命館での学びから世界を意識し、幅広い学びを求めようになりました。

大学も国際競争の時代に突入していますが、母校には世界で通用する大学へと成長してほしい。立命館はこれからもずっと私たち家族にとって大切な場所です。

## 家族と立命館の支えが歌手活動の原動力



左から仁史さん、雅史さん、直美さん

### シンガーソングライターの息子とAPU出身の2人の娘を持つ父

中田仁史さん（'78経済、中田商店など4社の社長）  
長女 中田直美さん（'06APU、中田商店勤務）  
長男 中田雅史さん（'07産社、シンガーソングライター）  
二女 中田美和さん（'05APU入学、米バブソン大学在学中）

### 中田雅史さんの1stアルバム『海空』好評発売中!

ホームページは

<http://nakatamasashi.com/>



二女の美和さん

## 立命館大学相撲部の伝統を3世代で継承

立命館大学で最初に誕生した運動部で創部90年超の伝統を誇る相撲部ですが、子どもの頃、相撲部OBだった父が頻りに部員を家に連れてきていたことなどが影響し、私も自然に相撲を始め、当たり前のように立命館、相撲部に入りましたね。当時は少人数でしたから大学や連盟関係の渉外やOBの方と付き合うことも頻繁で、この頃に大人社会の大切なことを学んだと思います。父との会話という相撲の話ばかりで、中でも「立命館は昔から相撲巧者が育つことが伝統」という言葉はよく耳にしました。体格で劣っても互角に戦える線まで選手を引き上げる「努力と工夫」の伝統は今でも受け継がれています。

私も父と同じように部員を家に呼んでいましたから、娘も相撲に興味を持ったようです。高校生後半に相撲を始め、全国3位に入るまでに成長しました。そして「おじいちゃんとお父さんの大学に行きたい」と立命館に進学し、マネージャーとして相撲部を盛り立てていましたね。

これからも部員たちには努力と工夫を忘れずに、日々を生活してほしいと思います。その大切さは、父と同じ立命館大学相撲部で過ごした私、そして娘も実感しています。



相撲部OBとして後輩たちの指導を続けた田中寛一さん（後列中央）

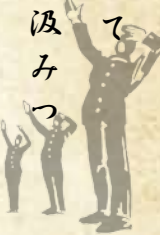


学生時代の寛一さん（後列右から2人目） 寛一さんと千尋さん



田中寛一さん（'74経営、学校法人立命館職員、立命館大学相撲部監督）  
父 田中寛一さん（'45法、立命館大学相撲部OB、故人）  
二女 坂口千尋さん（'02国関、立命館大学相撲部OB、双日株式会社勤務）

あかき血潮  
胸に満ちて  
若人 真理の泉を汲みつ



## 歴史と夢を京都市とともに歩んできた立命館はまちの原動力

## Congratulation Message from Daisaku Kadokawa

立命館とは一言で言うと「京都のまちの原動力」。常に時代の課題を見つめてきつちりとしたメッセージを発しながら改革が続いている印象が強いです。「まちづくりは人づくりから」立命館とその校友の皆様は伝統的に京都の文化、学問、芸術、産業、まちづくりなどの発展にご尽力されてきました。京都市は09年に市政120年を迎えましたが、創立110年の歴史を持つ立命館大学は歴史と夢・目標を共有し、ともに行動してきた「盟友」と言えます。

京都の最大の特性は「大学のまち」「学生のまち」であること。そして、その中核を担っている立命館は大学コンソーシアム京都などでも存在感が大きく、牽引力を発揮してこられました。この20年間の立命館の改革、飛躍は京都市はもとより関西にとっても大きな意味を持っています。東京一極集中が加速する現代の日本社会。この傾向は日本の未来に様々な弊害を生じさせます。しかし、大学においては京都の立命館が頑張り、そして京都、関西の私学が切磋琢磨しながら努力してきたからこそ、その傾向に歯止めがかかっています。しかし、これからが勝負です。産学公が連携し、オール京都で頑張っていきたいと思います。

立命館の学生は本当に元気です。市内各地のイベントに参画されるなど、積極的にアクションを起こし、地域と関わろうとされています。学生が地域と関わることで“化学反応”が起こり、地域に新たな活力が生まれています。実際に学生と地域が連携している現場では歴史力、文化力、地域力、人間力が融合し、学生はそこからいろんなことを学び、地域の人も学生から学ぶといった相乗効果をもたしています。これが“ほんまもん”の学びだと思いのです。

また、京都市役所でも多くの校友の方が活躍、市の発展に貢献されています。その中には親子で立命館校友という人もおられます。子どもは親の背中を見て育ちますから、そういった人は立命館で学んだことと京都市の仕事に誇りを持ち、それらについて子どもに語っておられるのでしょう。親が世の中のために頑張る姿を見て、そして「学生時代にこんなことを学んだんだ」と誇る話を聞いて、親の道に憧れるというのは理想の親子像の一つではないでしょうか。

私は学生時代、京都市教育委員会に勤める傍らで、立命館大学の二部に通いましたが、この4年間は3倍くらい生きた感じがします。とにかく忙しくも充実した毎日でした。このがむしゃらに生きた時間と多くの出会いがあったからこそ今の自分があると思います。そんな母校が京都のまちを牽引しながら発展されることをこれからも応援しています。



## 門川大作さん

(74法)  
京都市長

## プロフィール

京都市出身。京都市教育委員会に採用後、1974年立命館大学法学部二部を卒業。教育次長を経て01年4月から07年12月まで教育長を務め、小・中・高校・総合支援学校改革で教職員や地域、保護者の熱意を引き出す大胆な改革を断行。公教育再生のモデルとして注目される京都独自の教育方式を確立。中教審委員、内閣教育再生会議など公職多数。08年2月から現職。立命館大学出身の政令指定都市市長は史上2人目で、現職では知事も含めて唯一。

父から娘に受け継がれる  
立命、そして京都市職員のDNA

小久保一夫さんは立命館で学びながら京都市職員として働いていた。娘の優子さんも立命館で学び京都市で勤務と、父と同じ道を歩んでいる。立命館のお膝元である京都市を発展させたいという思いが潜在的に父から娘に受け継がれている。

私の親は働きながら通うという前提で、大学進学を認めてくれました。仕事と学業の両立は大変でしたが、軟式テニス部でも活動するなど、充実した4年間だったと思います。娘は高校生の頃から、海外での仕事を視野に入れていたことは知っていましたが、まさか同じ立命館に進むとは思いませんでした。在学中は音楽バンドの活動や海外各国を訪れるなど、いろんなことに挑戦していたようです。ローマで現地の人の優しさにふれる中で価値観が変わり、京都市職員を目指すようになった時は、同じ職場になることが照れくさかったのですが、「京都市のために」という同じ思いを持ち、大学からずっと同じ道を歩んでくれたことは、本音を言うとうれしい。

立命館大学法学部での学びは様々な場面で生きています。私は2010年に定年退職しましたが、今は娘が私の思いを受け継ぎ「京都市を感動してもらえらるまちにしたい」と全力投球です。伝統ある立命館の学びは、巣立っていく全学生が受け継ぐべきものだと思います。娘も「強い学生が育つ大学になってほしい」と母校に期待しています。



一夫さんと  
優子さん親子

## ともに職員として京都市をり立てる親子校友

小久保一夫さん(75法、元京都市職員)

長女 植野優子さん(99国関、京都市職員・下京福祉事務所勤務)



軟式テニス部のメンバーたちと  
(最前列中央が一夫さん)



2回生の春休みにイギリスでの研修プログラムに参加した優子さん

## 西園寺公望のDNAを受け継ぐ立命館の発展に期待

## Congratulation Message from Hiroo Saionji

私から見て、公望が生涯を通じて一貫して持っていた価値観は、「自由」と「中庸」だったと思います。つまり公家に生まれながら、古い仕来りなど“形式主義”や“権威主義”を好まなかった彼が、フランス留学で自由の魅力を体験し、“自由主義”、“平和主義”、“国際主義”を身につけました。一方で、留学中に目の当たりにしたバリ・コミュニケーションや、戦前の日本の偏狭なナショナリズムなど、左翼、右翼に関わらず、極端な思想や衝動的な行動に対しては危機感を持っていました。ですから彼の政治理念の基本には、「自由」と「中庸」があったと思います。

公望は20歳で私塾「立命館」を立ち上げましたが、そこには明治維新の新しい国づくりの基本は人づくりであるという、教育への強い思いがあったと思います。文部大臣のときに「科学技術の充実」「外国語教育の導入(国際化)」「女子教育の充実(教育の平等)」を提唱していましたが、後年に立命館大学創立者の中川小十郎氏に、「立命館」の名を継承していただいたのは、公望の秘書官としてその教育理念を一番よく理解されていた、中川氏だったからこそでしょう。

先日、APUの素晴らしい国際教育や、立命館小学校の自由でユニークな先駆的教育を拝見する機会がありましたが、そこには公望のDNAが脈々と流れ、彼の教育理念を立命館が確実に受け継がれていることを実感し、身内としてとても嬉しく思いました。そんな立命館の発展は日本のためにも大事だと思います。

私自身の仕事は、地球規模の平和の実現に向けて世界に貢献することであり、公望の目指した国際平和主義や自由主義という理念を、今の時代に私なりに実現していくことが使命であると考えています。その意味では、彼から受け継いだ平和のDNAを、立命館と同じように開花させていきたいと思っております。



## 西園寺裕夫さん

(公財)五井平和財団理事長  
西園寺公望公のご曾孫

## プロフィール

1949年生まれ。学習院大学経済学部卒業、米国立シカゴ州立大学大学院修了(MBA)。公益財団法人五井平和財団理事長(国連経済社会理事会 特別諮問資格NGO、ユネスコ公式関係財団)、日本ユネスコ国内委員会委員。民族・宗教・政治を超えたユニバーサルな世界平和活動を国際的に展開するとともに、国際機関、各国大使館、教育機関、NGOなどと協力し、平和教育、国際交流、五井平和賞、フォーラム・講演会の開催など、平和の構築に向けた様々な事業を推進している。

## 伝統の「立命館らしさ」を次世代へ

## Congratulation Message from Fumio Hirai

立命館らしさとは、その歴史というか「古さ」のようなものではないでしょうか。「立命館」という名前は歴史と伝統が感じられます。この古さに憧れて進学しましたね。当時は学費も安く、リベラルな校風も好きでした。その母校の創立110周年という歴史を感慨深く思います。

学生時代は、生まれて初めて自分を見つめ直すことができた時期でした。京都に出てきて、4畳一間の下宿で過ごしたあの開放感は今でも強く心に残っています。学業では「法は権利の上に眠る者を保護しない」という言葉の影響で法律が好きになり、かなり勉強しました。また、マルクス経済学についても、その思想は別にして、あのような学問を学んだということが印象的です。課外活動では探検部に所属し、個性的な仲間たちと、時には夜を徹して議論する日々でした。また、海外15カ国を1人で旅行したこともあり、各国の同年代の人と話し、現地を見るにつれて日本と世界の違いに衝撃を受けました。このように過ごした大学生活から、ジャーナリズムに惹かれていきましたね。

いま、大学改革の先頭を走っている立命館は誇りです。それでいて、伝統的なものはきちんと受け継いでいる。まるで京都のまちのようです。私が入学した1978年、世間では学生運動がほぼ終息していた中、衣笠キャンパスでは「授業料値上げ反対運動」が行われていました。この光景に驚きましたが、見方を変えると、これも「立命館らしさ」ということなのでしょう。独自の視点で、権力に対して批判的な目を持ち、そして他大学にはないユニークで魅力的な一面を持っています。これからさらに躍進していく中で、この立命館らしさも変わらず受け継いでほしいですね。



## 平井文夫さん

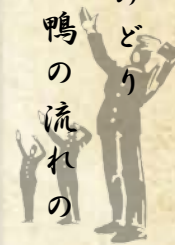
(82経済)  
フジテレビ 報道局専任局長

## プロフィール

長崎県出身。株式会社フジテレビジョン入社後、ワシントン特派員、NEWS JAPANプロデューサー、首相官邸キャップ、報道センター編集長、政治部長などを経て現職。現在は国内政治、外交の取材を主に担当し、「新報道2001」(日曜AM7時30分～8時55分)と、「NEWS JAPAN」(月曜担当キャスター、PM11時30分～)に出演中。



日曜朝の顔として「新報道2001」に出演中の平井さん(右端)



# 学園の110周年記念事業 紹介

この2010年をきっかけに、学生・生徒・児童の成長と満足を実現し、学園に関係する機関や人々の誇りと喜び、社会からの共感と支持を高め、立命館をとりまくすべての方に「立命館でよかった」と実感してもらいたいと考えています。110周年を記念した学園主体の企画や学生企画を多数展開しています。ここではその一部を紹介し(29ページに関連記事)。

## 地下鉄が立命館の博物館に变身

10月18日から10月31日にかけて、立命館慶祥中学校・高等学校の通学のメイン路線である札幌市営地下鉄東西線にて、列車を1編成丸ごと立命館一色に染める「立命館地下鉄ミュージアム」(R-Metro museum)が展開された。車内のポスター枠を独占し、500枚規模のポスターを掲出したほか、車両の外も装飾。この企画は立命館学園110周年を記念し、立命館の「歴史」と先進的な取り組みを紹介するものや、学園からの社会に対する「メッセージ」を発信する内容のものを掲出した。この地下鉄車両独占企画は様々な反応や話題を呼び起こしたことに加え、北海道の人たちに立命館を広くPRすることができた。



外観の装飾で立命館をPRする車両

110周年を記念し、立命館の「歴史」と先進的な取り組みを紹介するものや、学園からの社会に対する「メッセージ」を発信する内容のものを掲出した。この地下鉄車両独占企画は様々な反応や話題を呼び起こしたことに加え、北海道の人たちに立命館を広くPRすることができた。



地下鉄車内が立命館一色に染まったR-Metro museum



竹灯籠の灯がまちを幻想的に包み込んでいた

## 長い伝統とともに 新しい地域開発に挑戦する立命館 ～保津火祭りで二酸化炭素削減事業PR～

10月20日と21日に亀岡市で行われた保津秋祭り(火祭り)において、学園創立110周年記念事業として、竹炭作りと炭素貯留野菜の販売を通じた「亀岡カーボンマイナスプロジェクト事業」のPRイベントを実施した。立命館大学衣笠総合研究機構の鐘ヶ江秀彦政策科学部教授を中心としたチームが農山村地域にある未利用のバイオマス(ある空間内のある時点で占める生物体の量)資源を自己燃焼による反応熱で自動的に炭化し、土地改良材として、その炭を埋設利用する「クールベジタブル農法」の研究を、亀岡市を実験場として進めており、保津火祭りでその成果を広く発信した。

20日は同市保津町の方々とともに本学のPRブースを設営した後、立命館のロゴシール付きの竹灯籠を配置し、午後6時に点火した。鮮やかに点灯したオレンジの灯が暗がりのまちを幻想的に彩った。翌21日は野菜販売(野菜販売の仕入れなど「農業組合法人ほづ」と共同で実施)やアンケート調査を実施し、その後に竹炭焼きを行った。今回用意したPRブースには多くの人々が集まり、中でも展示した竹灯籠は非常に反響があり、来年もぜひ取り組んでほしいという喜びの声が多数あった。



炭素貯留野菜の販売の様子

## 立命館の附属校が集結! 「立命館フェア in みやこめっせ」を開催

9月26日(日)に「みやこめっせ(京都勤業会館)」において、学園創立110周年・APU開学10周年記念企画「立命館フェア in みやこめっせ」が開催され、約2800名が来場した。このイベントは、立命館の附属校5校が京都に集結し、児童や生徒のパフォーマンスや作品を一堂に展示する内容で、会場はステージ企画、国際教育、サイエンス教育、映像制作、芸術作品、大学(学部・研究科)紹介、附属校入試相談等のゾーンに分けられ、様々な企画を繰り広げ、立命館の一貫教育の魅力を広く発信していた。ステージ上でのメイン企画では、立命館高校と立命館大学の校友であるロボットクリエイターの高橋智隆氏が講演を行った。来場者は終日、和やかな雰囲気の中、立命館附属校5校の児童・生徒の発表を楽しんでいた。



ロボットクリエイター高橋氏の講演の様子

各校の制服の展示なども行われた



各校の制服の展示なども行われた

## 110周年オリジナルソングを発信!



学生に指揮に合わせて歌う児童たち

学生が110周年オリジナルソングを作り、その歌を小学校から大学、そして海外まで広がる立命館学園のメンバーが歌う企画「日本列島はみだせ音楽園祭～限りない草原へと踏みむ人に～」を実施。完成したオリジナルソング「旅の始まり」のビデオ映像をTwitterなどインターネットで配信し、その歌を介して交流が出来る仕組みをつかった。12月にはBKCにてこの歌を演奏披露する、立命館大学の音楽団体多数による合同ライブを企画した。

ビデオは学園メンバーが歌でつながる写真やムービー、歌手のインタビュー映像などを背景にオリジナルソングが流れるという内容。企画者や出演者全員心が一体となって収録された歌が披露されている。

ビデオ上映はURL:  
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/category/tokushu/101105/index.html/>で配信中。

### Column

#### 記念ロゴマーク

立命館のコミュニケーションマークを手掛けた秋山具義氏が「学園創立110周年記念のロゴマーク」をデザインしました。スクールカラーであるエンジ色を使った右肩上がりの矢印のデザインとRマークで構成されています(上記イラスト参照)。矢印は、前向きでポジティブなイメージが込められており、110周年を迎えた立命館がこれからも発展していくことを表現しています。



### Column

#### メッセージ大募集!

現在、立命館学園へのメッセージを募集中です。在学生や校友の皆様の立命館にまつわる思い出エピソードをメールにてお寄せください。いただいたメッセージについては、立命館大学ホームページ内「立命館学園創立110周年」特設サイトでご紹介させていただきます。応募方法など詳細は下記のURLをご覧ください。

URL  
<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/110th/r110-message.html/>

かがみもととし 天の明命  
見よ わが母校 立命 立命

立命館大学校歌  
作詞：明本京静 / 作曲：近衛香麿 / 編曲：外山雄三  
一九三一年八月に制定

## 型破りな商店街改造で豊かな地域社会へ

高松丸亀町商店街振興組合理事長

**古川 康造** さん（'81 経営）

### 商店街の“大改造”を実現

全国的に商店街が衰退する中、元気な商店街がある。香川県の高松丸亀町商店街は土地の地権者と利用者を分離し、まち全体を白紙にして再開発するという、これまでの概念を打破する手法で商店街の大改造に成功した。この取り組みは全国的に注目され、各地から視察団が相次いでいる。改造を中心になって進めているのは同商店街振興組合理事長の古川康造さんだ。

古川 JR高松駅の南に位置する高松丸亀町商店街は南北に全長470m、167店が連なり、北からA～Gの全7街区に区切っています。その歴史は古く、420年の伝統を誇ります。この伝統ある商店街が20年前に大きな危機を迎えました。バブル経済の真っ最中の1988年に瀬戸大橋が開通すると、売り上げ、通行量が半減するという壊滅の危機に直面したのです。私たちは商店街の賑わいを取り戻そうと、再開発計画を立て、2006年に新たな一歩を踏み出しました。今では客足が戻りつつあります。

バブルによる地価高騰と並行して、橋開通後は、地代の安い郊外に大型ショッピングセンターが建設され、その周辺に大型マンションが立ち並ぶと、商店街の人たちはあつという間に郊外へと移り住んでしまいました。かつては1000人を超えていたのが、いつの間にか75人の高齢者だけになるという事態に陥ったのです。商店街は人が減ると業種が偏り、衰退します。そうすると商店街はおろか、地域社会自体が崩壊です。その阻止に向けて、私たちは商店街改造に踏み切りました。

### 瀬戸大橋開通という荒波

瀬戸大橋開通前、四国は“保護”されてきたが、橋開通によって流通機能が増し、大手のショッピングセンターが参入。四国の各商店街は大きな打撃を受ける。しかし、高松丸亀町商店街は、開通してすぐに対策を講じていた。商店街再生に向けた取り組みが、どの商店街よりも早く始まっていたのだ。

古川 商店街の前理事長はこの事態を予測していました。理屈ではなく、長年の商人の勘として察知したようです。そして、橋開通後すぐに「10年で全滅する。再生計画を作れ」と、私たち商店街青年会のメンバーに指令が飛びました。バブル期で売り上げもピークだった頃でしたので、最初は「何を言っているんだ？」と疑問でしたが、大型店の影響で衰退した各地の商店街の視察を続ける中で、私も危機感を持ちました。そして、私たちの商店街もお客様が減り始めました。

私たちはその少し前から青年会メンバーで話し合い、現在の再生構想が固まりました。この構想はテナントを一新するプランで、そうすると行き着いたのが「土地問題」です。このモデルの実現には地権者と利用者を分離することが必要で、実際、学説上ではこの仕組みが古くから唱えられていますが、日本ではまだ現実化されていませんでした。そもそも「土地をどう使うかは地権者の勝手」というのが日本人の常識。こればかりは誰もコントロールできない。しかし、コントロールする仕組みを構築しない限り、再生はなし得なかったのです。

こうした法や制度に関する様々な障害をクリアするために土地計画、商業、金融、法務などに関する、国内屈指の学識経験者に集まっていたく委員会を設置しました。「自分たちは



モルモットになる。だから、丸亀で皆さんの学説の実証実験をやってください」と先生方に持ち掛けると、熱意が通じたのか同意していただきました。所有と使用の分離という概念はわかるが、それをどう具現化するのか、私たち商店の間にはわかりませんでしたから、専門家の皆様には本当に感謝しております。

委員会では実態で関わる地権者と学識経験者によるワークショップを何度も繰り返し、そうして出来上がったのが『定期借地権による土地の所有と利用の分離』と『まちづくり会社という地権者の共同出資会社の設立』というプランです。これは、地権者が60年間の期限付きで土地の利用権を放棄、すなわち「土地を一旦まとめて全員合意で自分たちのまちづくり会社に貸す」という方式です。必死の説得を繰り返し、地権者の合意を得ました。この方式は地権者が利益によって地代を得られる仕組みとなっているため、自然に各地権者の意識が自らリスクをとる「自治」へと変わっていききました。これまでどこも実現し得なかった分離方式を四国のまちの商店街が最初に実現したということで今、注目されているようです。

「60年後はどうするのか」と頻りに聞かれますが、逆に20

年先でも正確に予測できる人なんていないですよ。だから、その時の地権者が決めれば良いという結論に達しました。

### 1つの小さな成功例が弾みに

最初の開発は最北にあるA街区に集中投資した。A街区には海外の人気ブランド店や、これまではなかった業種の店をテナントが配置され、見違えるように変身。すると、いきなり売り上げが3倍に跳ね上がった。

古川 とにかく成功例がほしかった。ひとつの成功例ができる、その先はほっといても連鎖しますから。地権者の皆様の先祖伝来の土地を預かるというプレッシャーは想像以上で、結果が付いてきた時は喜びというよりもむしろ安堵の方が大きかった。そうすると「俺たちはやらないぞ」と言っていた地権者も「うちの街区はいつやってくれるんだ」と、一変しましたね。

A街区は構想が固まるまで16年かかりましたが、隣接するB街区はわずか4年、C街区は2年でまとまりました。あと5

年ですべての改造が完成する予定です。そして、商店街だけでなく、元気をなくしつつある地元の百貨店とも連携しています。海外ブランドの店の誘致などで協力していただくなど、同じまちで生きる仲間同士、助け合いながら共生していきたいです。

この計画は「民」だからこそ実現したと考えます。既存概念ではできないことをやっていますから、それは民間がやらざるを得ない。役所が整備するとなると、様々な規制に阻まれて実現するのは無理でしょう。実際にこの計画を進める中でも都市計画法、建築基準法、道路交通法、出資法…など、ありとあらゆる法律の壁に当たり、この調整に時間がかかりました。

例えば、この商店街のシンボルになっている「丸亀町ドーム」の建設の際には、お客様の回遊性を保つために2つのビルを中空で結ぶブリッジをつくらうと考えました。これを実現することで、エスカレーターやエレベーターの数を半減できるからです。しかし、そのブリッジは市の道路である商店街の上空に位置するため認められませんでした。この問題をクリアするために再開発特区の申請をして、ブリッジの必要性を説いて、ようやく高松市の許可を得ることができました。たかが橋一本造るのに3年もかかるんですよ(笑)。とにかく、私たちの計画を阻害するのが現行法でした。

また、大型店の脅威についても自治体はもっと「地域」の視点で見てほしい。地域の人が稼いだお金が地元の大型店に落ちて、決算は本社で行うわけですから、税金は地域には入りません。景気のいい時はそれでも何とかあったが今は違う。そもそもまちづくりには「地域社会を壊してはいけない」という前提が必要なのではないでしょうか。そして、今は自治体も税収を増やすことを考えるべきです。地方交付税頼みの地域行政の仕組みは人口減、マイナス成長の時代では通用しません。新しい地域運営の仕組みを構築することが、これからの自治体に求められているのではないのでしょうか。

### 学生時代の経験が 商店街再生計画の原点

学生時代、様々なことを経験し、充実した生活を送っていた古川さんは、京都のまちで実態的に多くのことを学んだ。



中でも、京都の呉服屋などで台風のように手形が流れるシステムに関心を持ったという。そのシステムの基盤には「しっかりとしたコミュニティ」があった。これが再生計画の原点にある。

古川 私は「手形法」のゼミでしたが、それを選んだのはアルバイトがきっかけでした。京都は歴史が古く、金融システムが確立していて本当に驚きましたが、中でも、まちが手形で回っているところに興味を持ちました。当初は「こんな仕組みで大丈夫なんかな?」と思いましたが、町中が自分たちで支えあっているからこそ機能していたのです。

今回の開発も学生時代に学んだことがベースになっています。京都は歴史がありますから、住民一人ひとりが「自分たちのまち」という観点で物事を考え、各個の主張よりもまち全体を優先するという土壌が築かれていました。合理的に考えると、権利主張するよりもまち全体を優先した方が後で利益が付いてきますよね。この京都のようなまちづくりを参考にしています。

私たちが成功した要因の1つには地域のコミュニティが成立していたことも挙げられます。伝統があるまちでしたから、普段はいがみ合っているけど根本的には団結意識を持っていました。だからいざという時の結束力は固かった。各地の

商店街でも、祭りを行うなどコミュニティさえしっかりしていれば再生は可能です。逆にコミュニティが崩壊していたら地権者と利用者の分離は不可能と言っても過言ではないと思います。

この私たちの成功例について、学生が調査に来ることもあり、時々、立命館の学生も訪れてくれます。後輩はやはり、特別ですね。最高のもてなしで対応していますよ(笑)。

### 夢へと向かう新たな挑戦

古川さんの夢は“自分”が豊かな老後を迎えること。自分がそう過ごせるということは、地域社会が豊かになっているということの証だ。「今は自分たちのまちの未来を自分たちで考える時代です」。その目は一点の曇りもない。

古川 瀬戸大橋開通前の地域の人たちは豊かに映っていました。私もそんな老後生活を送りたい。これからは地域による自給自足体制が大切だと考えます。校友の皆さんも、これまで個人で頑張ってきたと思いますが、これからはコミュニティを大切にしてください。

私たちの商店街では2010年から高齢者を対象にしたマンションの建設、販売も始めました。将来的に1500人ぐらいの居住者の増加を見込んでいます。また、医療モールを完備したマンションも商店街に建設しました。周辺では医療機関が減少していますので、住民のかかりつけ医の役割を果たし、中心市街地に居住者を呼び戻す切り札として期待しています。各診療科が入り、循環器リハビリや人間ドックなどの施設も設けました。加えて、UターンやIターンを希望する医師を受け入れることもコンセプトにあります。

さらに、生産農家と直接契約する市場や介護施設もつくる予定です。このように、私たちがやっていることはシンプルで、必要なものを整備しているだけです。自分たちのまちの未来は自分たちで考えるべき。今は大都市で働く人でも最終的に行き着く所は故郷ではないでしょうか。そういった人たちが豊かに暮らせる受け皿を用意し、笑って老後を迎えたいですね。

## Kouzou Furukawa



高松市生まれ

1977年 立命館大学経営学部 入学

1981年 同 卒業

### ■ 現在

高松丸亀町商店街振興組合 理事長

高松丸亀町まちづくり株式会社 専務取締役

丸亀不動産株式会社 専務取締役

高松丸亀町壱番街株式会社 取締役

国立大学法人 香川大学 非常勤講師

2007年度(社)日本都市計画学会石川賞受賞

### ■ 高松丸亀町商店街ホームページ

<http://www.kame3.jp/>



変身した丸亀町商店街のA街区の丸亀町ドーム周辺



# 広島県

広島県校友会会長  
**伊藤 利彦**さん(62法)  
2005年9月就任

## 学生時代の思い出を教えてください。

**伊藤** ●立命館の当時のイメージは「質実剛健」。決してスマートではありませんでしたが、高校の担任や先輩の勧めもあって、立命館を選びました。中でも、百万遍の北の田中春菜町にあった春菜寮(30数人の小規模寮)で過ごした日々が大きな思い出であり、財産です。

当時の寮生とは今でも3年ごとに会っています。毎回、30人ぐらゐは集まりますね。あの頃の寮は、若い方は想像がつかないかもしれませんが、完全な縦社会で、とにかく先輩の命令には理屈抜きで従っていましたよ(笑)。嫌なこともありました。今思うと寮での先輩後輩の付き合いは社会勉強になりました。今の学生にもあぁいった団体生活の



伊藤会長

学生時代、寮対抗の文化祭で寮の仲間たちと一緒に(右端が伊藤会長)



## 広島県校友会

設立:1953年  
会員数:約3100名(2010年12月現在)  
懇親会時期:毎年9月の第1土曜  
総会参加者数:約150名



\*広島電鉄株式会社ホームページより

経験は必要なのではないでしょうか。

学業では一応、司法試験を目指していたこともあり、末川博教授は憧れの存在でした。先輩と一緒にご自宅を訪れたこともあります。あの温かい表情は今でも覚えています。とにかく、充実した4年間でした。

## 卒業後は広島市役所でご活躍され、早い時期から校友会にも参加されていたそうですね。

**伊藤** ●入所後すぐに先輩に勧められ、「広島市役所広小路会」に参加しました。同窓のよしみで、先輩が仕事面で相談に応じてくれたり、無理を聞いてくれることもあり、私にとって、広小路会は大きな存在でした。その頃は、本体の広島県校友会には2000年頃から本体の会に顔を出すようになりました。

広島は地域、職域、同好会など色々な分野の17の会があり、それぞれ活発に活動しているのが特徴です。中でも「メッセン広島」という会は、多数の女性の声を受けて2006年につくりました。昼の時間帯に食事会を開くなど、女性ならではのテーマによる歓談が繰り返されているようです。やはり、女性が集まれば会が華やかになりますから、もっと女性の参加者を増やしたいですね。また、毎年1回、県校友会が作成した会報誌を会員にご送付し、学園や校友会に関する様々な情報を届けています。

## 広島県校友会のこれからの目標について教えてください。

**伊藤** ●京都・立命館大学でともに過ごした

同窓というつながりを活かして皆さん、年に1度は集まって、お互い顔を見せ合ひましょうよ。校友会には色々な人が集まりますから、そこで情報交換することは大きなプラスになるはず。そのためにも1度来た人が、次も来るような会にしたいです。

また、比較的若い校友の参加が少ないという課題もあります。青年部を発足するなど、若手の参画を増やし、会を盛り上げたいですね。

立命館とは青春時代、私を育ててくれた場所。だから、恩返しをしたい。そして、在学中から卒業後もずっと立命館と関わっていますから、正直なところ、もう離れられない関係です。今、広島県校友会はじめ、全国の校友の方とお付き合いさせていただいていますが、そういった関係を築くことができたのも立命館のお陰です。本当に感謝しています。

昨今の大学の発展ぶりは本当に誇りです。想像を超える成長を遂げていて、とても嬉しい。私を育ててくれた立命館の更なる発展に向けて、できる限りの恩返しをしたいですね。

<http://alumni.ritsumei.jp/hiroshima/>

総会のひとコマ



# タイ

タイ王国校友会会長  
**加賀美 長稔**さん(76産社)  
2009年9月就任

9月に開かれた懇親会に集まったメンバー



## 学生時代の4年間、有意義に過ごされたようですが。

**加賀美** ●比較的まじめな学生だったと思います。車が好きだったので、カー用品販売のアルバイトもしていました。当時は嵯峨野で暮らしており、時間があれば渡月橋の下で釣りをするのが楽しい時間でした。学生の頃に学んだことは仕事面で活かしていることが多く、中でも「生産現場の効率性」などに関する勉強は、私の仕事である生産現場でのマネジメントにおいて非常に活かしています。

卒業論文のテーマはオーストラリア・キャンベラの都市開発に関する研究でした。都市計画に関心を持っていましたので、世界でも稀にみる卓越した都市計画によって完成されたこの都市で住民を調査し、卒業後



加賀美会長

のことを考えながら見聞を広めていました。この頃から海外で働くことを意識していましたね。

私にとって京都は特別な場所です。周囲に学校が多く、まちに若者たちの活力がありました。卒業後も何度か足を運びましたが、行く度に「京都はいいなあ」と思います。最近の母校はびわこ・くさつキャンパスの開設や立命館アジア太平洋大学の開学など、大きく成長している印象です。教職員の方たちが色々考えながら懸命に取り組まれている成果なのでしょうね。立派に成長している印象が強いです。

## タイの魅力について教えてください。

**加賀美** ●タイの最も美しいところは、小さな子どもやお年寄りに対する優しさです。今の日本にはない良さがあります。皆さんもご存知の2010年4月の暴動は、これまではない規模のものでした。幾度かクーデターはありましたが、ビジネス街のど真ん中で起こるといのは前代未聞。実際に私たちの生活にも打撃で、私が勤める会社の関連会社や校友の勤務する会社でも数社が数日から2ヶ月近くの閉鎖などの影響が出ました。

ただ不思議なことに、暴動から半年が経ちましたが、経済全体をみても暴動の影響を引きずっている様子はなく、むしろ全体的に伸びている印象が強い。特に生産労働者の数は足りなくなっているほどで、活力がみなぎっています。タイだけでなく、ベトナム、ラオス、そして日本以外の投資によりミャンマー、カンボジアも予想以上に勢いがありますね。

## タイ王国校友会の現状と抱負についてお聞かせいただけますでしょうか。

**加賀美** ●今は年に数回、懇親会を開催していますが、月に1度は集まれる会にしたい。そのためにも魅力ある校友会にしなければなりません。近年、タイの日本人人口は増加しており、約4万人に上ります。このうち、校友は少なくとも100人はいると思いますが、私たち事務局ではその所在を把握し切れていません。以前は70人ものが員がいた時期もありましたが、現在、集まれる人は10人程度。会を再燃させるためにも新たに名簿を作り直し、会に集まるきっかけになる種をまいていこうと思います。

ともに立命館大学を卒業し、タイの地で生活しているというこの偶然は、大きな縁だと思いませんか。私はこの縁を大切に、ともにタイの良いところを満喫できるような関係を構築したいですね。ゴルフや釣りに加えて観光や自然とのふれあいなど、日本とは違った趣味を味わえるチャンスであふれていると思います。校友同士の輪が広がり、趣味を中心にした情報交換ができるような会になれば面白いと思います。そして家族ぐるみで参加できる場にしていけることが会長としての私の目標です。

## タイ王国校友会

設立:1998年  
会員数:約40名(2010年10月現在)  
懇親会時期:月1~2回開催(予定)  
総会参加者数:約10名



# R オール立命館校友大会2010 IN 福岡

10月30日(土)、福岡市の「グランド・ハイアット・福岡」において、「オール立命館校友大会2010 IN 福岡」が開催された。今回は立命館大学校友会ならびに福岡県・北九州・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県の九州沖縄各校友会が実行委員会を構成、校友会史上初の福岡での開催となる大会を企画した。当日は九州沖縄在住の校友を中心に全国各地から、また北京、上海、香港、韓国、タイ、インドネシアなど海外校友会から代表が駆けつけるなど、総勢1,300名が集結。隣接するキャナルシティ博多サンプラザステージの観覧者約1,300名を加え、総勢2,600名が今回の大会に参加した。

## レセプションパーティー



■ 盛り上がる会場の様子

第3部レセプションパーティーは15時にスタート。例年通り着席・立食の会場が用意され、卒業30周年を迎える昭和55年卒業校友の招待も行われた。パーティーはAPU校友で津軽三味線奏者の鈴木利枝さんの演奏で幕を開け、応援団の生演奏・リードで校歌を斉唱。続いて長田豊臣立命館理事長が「世界標準の大学として認められるよう発展させていきたい」と力強く挨拶し来賓祝辞とした。

その後、九州沖縄の全校友会会長(清家邦敏福岡県校友会会長・校友会本部副会長、奥野照章北九州校友会会長、西村邦彦佐賀県校友会会長、横山正人長崎県校友会会長、隈部幸一熊本県校友会会長、岡崎信行大分県校友会会長、高橋一身宮崎県校友会会長、福元寅典鹿児島県校友会会長、糸洲昇沖縄県校友会会長)および山中会長、西村義行大会統括副会長、中村義孝大会実行委員長、立命館より川口総長、長田理事長の合計14名が登場し、特製「R」樽による鏡開きを行ない、清家福岡県校友会会長の乾杯発声により歓談が始まった。

ばんばひろふみさん(S48経)が立命館高校在学中に結成したバンド「VELVETS」によるプレミアムライブに加え、宮崎県より参加の「日向ひよっこ踊り」、沖縄伝統芸能エイサーを起源とする「琉球国祭り太鼓」の演舞など、九州沖縄地域の特色を活かしたアトラクションが展開されたほか、鹿児島県校友会により「奄美豪雨災害義援金」の募集活動が行われ、総額27万円余りの厚志が集まった(この模様は後日、南海日日新聞社の記事として報道された)。

終盤は「校友大会開催地引継ぎセレモニー」が行われ、九州沖縄の9校友会会長から2011年度大会(開催地京都)を主催する近畿2府4県の校友会代表者に校友会旗が手渡された。代表して挨拶した村上健治大阪校友会会長・校友会本部副会長は「九州沖縄の皆さんのような熱く緊密な連帯を近畿においても構築したい」と述べ、応援団のリードのもと参加者全員で応援歌を斉唱し、西村副会長が「これからも立命館ファミリーがさらに発展するよう、皆で強く温かい絆を築いていこう」と中締め挨拶を行い閉幕した。

2011年度の校友大会は、10月29日(土)にホテルグランヴィア京都で開催する予定。



■ 応援団のリードのもと、応援歌を大合唱する参加者たち



■ ばんばさん(中央)たちのバンド「VELVETS」のステージ



■ 長田理事長



■ 校友会旗が引き継がれたセレモニー



■ 盛り上がる第2会場の様子



■ 宮崎ひよっこ笑福会の皆さんによる踊りは会場を盛り上げた



■ 琉球国祭り太鼓福岡支部の皆さんが繰り広げるエイサー



■ 西村副会長



■ 鈴木さんの三味線演奏でパーティーが幕明け



■ Rの樽の鏡開きで歓談がスタート

## 総会および特別講演

オープニングアクト「小倉祇園太鼓」を経て、13時に第1部総会がスタート。総司会は飛鳥井雅和さん(S39法、元KBS京都アナウンサー)と、共にNHK福岡放送局でキャスターを務める米谷奈津子さん(H11産)、秋山千鶴さん(H11文)の3名が担当した。

山中諄校友会会長(S40経)は「九州沖縄の校友に母校の発展をあらためて実感していただきたい」と挨拶し、川口清史立命館総長は「京都滋賀から遠く離れた九州沖縄の地で母校を力強く支える校友に敬意を表したい」と祝辞を述べた。その後、総会議事を経て、校友会会長特別賞の受賞学生団体代表挨拶、今大会新聞広告に登場した九州沖縄若手校友の紹介が行なわれ、代表して沖縄県校友会の池間明子さん(H13政)が挨拶を行なった。

13時40分からの第2部は「百年史編纂余滴一学園の転機をともに歩み、ともに乗り越えてきた校友会」と題し、立命館百年史編纂室参与、校友会顧問の吉田幸彦氏による特別講演が行なわれた。



■ 川口総長



■ 山中会長



■ 講演する吉田氏

## アフタヌーンティーパーティー



■ 懇親を楽しむ女性校友たち

女性校友限定企画の「アフタヌーンティーパーティー」では、校友会報「りつめい」242号の特集記事にご登場の三宅あきさん(S60文:北九州校友会)、杉崎朋子さん(H4文:新潟県校友会)、大倉昌子さん(H13法:愛知県校友会)のスピーチに引き続き、約90名の女性校友が懇親を楽しんでいた。



■ 総会のお触れを告げる小倉祇園太鼓保存振興会「誓会」の演奏



■ モニターに映し出された吉田氏の講演に聴き入る参加者



■ 大会告知の新聞広告に登場した九州・沖縄の校友の皆さん

## サンプラザステージ

キャナルシティ博多の中心にあるサンプラザステージは「R」で装飾されたほか、「R」の風船が配られるなど、会場は立命館一色に染まっていた。ステージではAPUから韓国・サムルノリの伝統サークル「Shinmyong」とインド舞踊サークル、立命館大学からはダンスサークル「舞Style」が演技し、その高いパフォーマンスで周辺を行き交う多くの若者たちを惹きつけていた。



■ 立命館のRマークで彩られたステージ周辺



■ 「R」の風船を配布し、広く立命館をPR

## 会場周辺の様子

会場内には「白川静生誕100周年記念展示」や「立命館大学・APU入試広報コーナー」、グッズ販売のブースが設けられたほか、囲碁研究部の対戦企画や茶道研究部のお茶接待のコーナーでは、校友と学生が交流を深めていた。



■ 立命館のグッズ売り場は大勢の来場者で殺到



■ 茶道研究部員によるお茶接待コーナー



■ 白川静生誕100周年記念展示に見入る校友たち



■ 学生との囲碁対局を楽しむ校友

## 都道府県校友会／海外校友会

- ◆ 9/22 タイ王国校友会懇親会 (8名・Napa)
- ◆ 9/23 インドネシア校友会懇親会 (8名・Esina)
- ◆ 9/25 広島県東部校友会総会 (61名・鷗風亭)
- ◆ 9/26 香港校友会懇親会 (15名・日本料理大阪)
- ◆ 9/26 在韓立命館大学同門会懇親会 (8名・ソウル市内)
- ◆ 10/5 和歌山県校友会総会 (100名・ホテルグランヴィア和歌山)
- ◆ 10/17 栃木県校友会総会 (85名・宇都宮東武ホテル・グランデ)
- ◆ 10/22 岐阜県建設会総会 (40名・ホテルリソル岐阜)
- ◆ 10/23 福島県校友会総会 (38名・ラヴィバレー番丁)
- ◆ 10/23 千葉県校友会「Rちば校友の集い」 (85名・船橋グランドホテル)
- ◆ 10/23 兵庫県校友会総会「兵庫県校友のつどい」 (150名・神戸ポートピアホテル)
- ◆ 10/24 茨城県校友会総会 (50名・三の丸ホテル)
- ◆ 10/30 福岡県校友会総会 (301名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 北九州校友会総会 (151名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 佐賀県校友会総会 (52名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 長崎県校友会総会 (57名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 熊本県校友会総会 (54名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 大分県校友会総会 (72名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 宮崎県校友会総会 (39名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 10/30 鹿児島県校友会総会 (94名・チャンネルシティ博多)
- ◆ 11/6 福井県校友会総会・校友の集い (120名・ホテルフジタ福井)



タイ王国校友会



広島県東部校友会総会



和歌山県校友会総会



栃木県校友会総会



千葉県校友会「Rちば校友の集い」



兵庫県校友会総会



福岡県校友会総会



北九州校友会総会



佐賀県校友会総会

- ◆ 11/6 愛知県校友会総会「イヤーズミーティング」 (400名・名鉄ニューグランドホテル)
- ◆ 11/7 埼玉県校友会総会「彩の国・校友の集い」 (60名・東天紅JACK大宮店)
- ◆ 11/12 鳥取県東部校友会総会 (57名・しいたけ会館)
- ◆ 11/12 山口県校友会総会 (60名・ホテル松政)
- ◆ 11/12 サイゴン校友会発足会 (9名・SH Garden)
- ◆ 11/13 宇部・小野田校友会総会 (30名・ホテル河長)
- ◆ 11/13 島根県校友会総会 (35名・サンラボーむらくも)
- ◆ 11/14 立命館校友交流パーティー in INDIA (23名・ESSEX FARMS)
- ◆ 11/16 ハノイ校友会発足会 (9名・紀伊)
- ◆ 11/20 鳥取県西部校友会総会 (33名・米子全日空ホテル)
- ◆ 11/27 東京校友会総会(経済学部同窓会同時開催) (170名・パナソニックセンター東京)
- ◆ 11/28 群馬県校友会総会 (31名・群馬県庁31階レストラン)



愛知県校友会総会



埼玉県校友会総会



鳥取県東部校友会総会



山口県校友会総会



サイゴン校友会発足会



宇部・小野田校友会総会



島根県校友会総会



立命館校友交流パーティー in INDIA



ハノイ校友会発足会

## 地域校友会

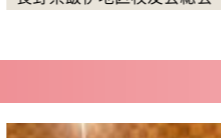
- ◆ 9/25 長野県校友会東信地区総会 (20名・小諸グランドキャッスルホテル)
- ◆ 10/23 高槻・島本校友会総会 (80名・アンシェルデ・マリアーージュ)
- ◆ 11/5 北摂校友会総会 (63名・ホテルアイボリー)
- ◆ 11/20 長野県校友会飯伊地区会総会 (19名・殿岡温泉湯～眠)
- ◆ 11/27 広島県西部地区校友会総会 (17名・永渡屋)
- ◆ 11/27 愛媛県校友会今治支部総会 (16名・笹)
- ◆ 12/4 兵庫県校友会西宮支部特別例会 (27名・煉瓦館)



長野県校友会東信地区総会



高槻・島本校友会総会



北摂校友会総会



長野県校友会飯伊地区会総会

## 職域校友会

- ◆ 9/25 行政書士京都立命館総会 (ルビノ堀川)
- ◆ 10/7 Rits不動産ネットワーク総会 (131名・ウェスティン都ホテル京都)



行政書士京都立命館総会

- ◆ 11/20 技術士会第1回交流・懇親会 (33名・レストラン・モリシタ)
- ◆ 11/23 滋賀銀行比叡会 (85名・ホテルボストンプラザ草津)



技術士会交流・懇親会

## 学部・学科校友会

- ◆ 9/11 薬師寺ゼミ同窓会 "薬師寺先生還暦お祝いパーティー" (50名・ホテルグランヴィア京都)
- ◆ 9/18 村上弘教授を囲む会 (33名・末川記念会館)
- ◆ 9/19 経営研究会同窓会総会 (17名・京都タワーホテル)
- ◆ 9/23 文学部英米文学同窓会 (30名・ホテル日航奈良)
- ◆ 10/2 文学部哲学同窓会50周年記念祝賀会 (100名・からすま京都ホテル)
- ◆ 10/16 建設会総会 (180名・京都タワーホテル)
- ◆ 10/22 岐阜県建設会総会 (45名・ホテルリソル岐阜)
- ◆ 10/22 愛知県衣笠会 (40名・名鉄ニューグランドホテル)
- ◆ 10/23 機友会北陸信越支部総会 (30名・秀峰会)
- ◆ 10/23 関東立電会 (18名・立命館東京キャンパス)
- ◆ 10/24 小牧聖徳先生を偲ぶ会 (30名・ホテルグランヴィア京都)
- ◆ 10/30 機友会滋賀支部総会 (BKCコアステーション)



薬師寺ゼミ同窓会



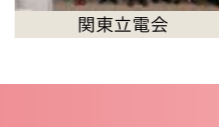
村上弘教授を囲む会



経営研究会同窓会総会



岐阜県建設会総会



愛知県衣笠会



機友会北陸信越支部総会



関東立電会



小牧聖徳先生を偲ぶ会

## その他の会

- ◆ 9/22 三四郎会 (29名・山とみ)
- ◆ 10/22 法旧2Lクラス同窓会 (7名・割烹佳久)
- ◆ 10/24 宮城県校友会「第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」慰労・懇親パーティー (63名・KKRホテル仙台)
- ◆ 11/6 異業種交流会「Rits Bar」(リコネット東京主催) (106名・BarYM)
- ◆ 11/7 三重県校友会、全日本大学駅伝応援 (20名・伊勢神宮他)
- ◆ 11/10 一水会 (40名・帝国ホテル大阪)
- ◆ 11/13 経営学部社会人学生同窓会 (7名・JR京都駅周辺)
- ◆ 11/14 立命館守山早苗会発足60周年記念行事 (200名・立命館守山中学・高校)
- ◆ 11/14 中川小十郎先生亀岡顕彰会発足記念法要 (亀岡市内)
- ◆ 11/23 衣笠寮友会 (京都タワーホテル)
- ◆ 11/28 吉田寮友会 (45名・鶴清)



三四郎会



法旧2Lクラス同窓会



立命館守山早苗会発足60周年記念行事

## 『白川学入門講座』全3巻が好評発売中です

今年は、立命館が生み出した、世界に誇る大学者、故白川静先生の御生誕100周年に当たります。また、白川先生を顕彰するために設立された立命館白川静記念東洋文字文化研究所は、5周年を迎えることができました。

この2点のための記念事業の一つとして『白川学入門講座』全3巻が出版されました。これまで、多くの白川ファンから寄せられたおことばは、白川先生の御著書が大量であり、どれを読めばよいのか迷ってしまうというものでした。

そこで、当研究所は白川先生のお仕事の全体が分かるように、どういった御著書があり、その内容はどういうものであるかということを知りたいという目的で、第1巻(文学)・第2巻(文学)・第3巻(思想・歴史)に分けて、入門講座を製作いたしました。

つきましては、校友の皆様にご御購読賜りたく、ここに伏してお願い申し上げます。

書店での価格は3巻セットで税込5040円(各巻1680円)ですが、校友の皆様様に限り約25%割引の4000円(送料当方負担)にてお求めいただけます。下記にお申し込みいただけますとありがたく存じます。12月時点で校友の方より、既に70セットをお申し込みいただいております。

所長 加地伸行(立命館大学教授)

お申し込み先  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所  
TEL: 075-465-8225(担当:中島・川根)  
FAX: 075-465-8245 E-mail: toyomoji@st.ritsumei.ac.jp  
※氏名、連絡先(住所・電話番号)、卒業年、数量を明記し、FAX、Eメール、ハガキよりお申込下さい。



RESSOB会



69年卒立命ワングル信州同窓会



履舎会

## 川本八郎立命館顧問の著書の出版を記念するパーティーが開催されました!

10月7日(木)17時から、ウェスティン都ホテル京都で川本八郎立命館顧問・前理事長の著書『大学改革—立命館はなぜ成功したか』(中央公論新社)の出版記念パーティーが、Rits不動産ネットワーク第4回総会と併せて開かれ、131名が参加した。

パーティーの前段に行われた記念講演では、川本顧問が「大学の改革」に関するテーマで話し、私立大学の基本矛盾や偏差値主義など戦後教育の欠陥について言及。「意欲的に社会で働くような、燃える人間を育てない限り、学校も日本も衰退していく」と力を込めた。さらに「現在がすべてである、という歴史観を現役の皆さんが持つことが極めて大切だと思う。現在を輝くものにするだけで過去も輝かしくなり、現在が輝かなければ未来はない。今を輝かせるこ

とができるのは現役の人たちだけ。だから皆さん、頑張ってください」とエールを送って締めくくった。

\*川本八郎立命館顧問・前理事長の著書『大学改革立命館はなぜ成功したか』(中央公論新社、1700円+税)を購入希望される場合は、下記までお問合せください。  
<連絡先> 075-463-9038  
(株式会社クレオテック/担当・諸川)



■ 川本八郎立命館顧問

## 54名の校友が熱く応援! 硬式野球の立同戦の観戦招待企画が行われました!

10月24日(日)、25日(月)の2日間、わかさスタジアム京都(西京極総合運動公園野球場)において、硬式野球の「立同戦」を観戦する企画が実施された。6月の「立命館大学ホームカミングデー」で、料金の一部が学園に寄付される仕組みで販売された記念グッズを購入していただいた方を学園が招待する企画で、2日間で延べ54名の校友、



■ 熱い応援を繰り広げる校友たち

父母、一般の方々を訪れた。両日とも天候が優れないなか、ポンチョを着て応援するなど、参加者は熱い声援を送っていた。

立命館、同志社のそれぞれ勝った方がリーグ優勝という、お互い負けられない戦いの中、立命館は第1戦を延長戦の末に落としたものの、第2戦で勝利。しかし、26日(火)の第3戦で惜しくも敗れ、宿敵の同志社が優勝した。

招待を受けて観戦に訪れた、野球部OBの藤原湧正さん(64 経済)は「西京極で後輩の試合を観戦できて感激しています。勝敗は別にして、一生懸命プレーする後輩の姿を見て元気をもらえました」と感慨深げに話していた。

## 校友の皆様からの情報と投稿をお待ちしています

校友会広報委員会では、読者の方々の投稿と「立命館 思い出の場所はいま…」に掲載する情報を募集しています。

### ● 投稿募集

皆さまのご意見をお寄せください(400字~800字)。郵便、ファクス、Eメールのいずれでも結構です。



### ● 「立命館 思い出の場所はいま…」の情報募集

皆さまが通っていた立命館のキャンパス周辺は今、どうなっているのでしょうか。校友会広報委員会では、皆さまから取材してほしい母校周辺の情報を募り、誌面の中で取り上げるコーナー「立命館 思い出の場所はいま…」を随時掲載しています。皆さまからの情報に基づいて、各キャンパス周辺の「いまの姿」をお届けします。下記の①~③をご記入(ご入力)のうえファクス、またはメールにてご応募ください(メールの方は、表題を「立命館 思い出の場所はいま…」としてください)。

- ①誌面掲載を希望する場所 ②その場所に関するエピソード
  - ③卒業年、卒業学部、通っていたキャンパス、お名前、電話番号、お持ちであればメールアドレス
- \*掲載希望の写真がある方はお電話にてご連絡をお願いします。

いずれも掲載の採否は校友会広報委員会にて決定いたします。採用が決まりました方には、追ってこちらからご連絡させていただきます。

宛て先

立命館大学校友会事務局

TEL:075-813-8216 FAX:075-813-8217 E-mail:alumni@st.ritsumei.ac.jp

# +R なる人



何でもないことは流行に従う。  
重要なことは、道徳に従う。  
芸術に関することは、自分に従う。

朝日放送株式会社勤務

**岡元 昇** さん (立命館大学産業社会学部卒業)

「オカゲン」といえば、聞いたことがある方も多いだろう。朝日放送のアナウンサー、岡元昇さんだ。

学生時代は氷室にある学生アパート「対雲荘」での生活だった。1階に6人、2階に6人、離れのプレハブに2人。岡元さんは101号室。電話の取り次ぎ係りだった。音楽家、書道家、アメフト選手等、多様な立命館大学の住民と交流した。卒業論文は『テレビ文化とその子どもへの影響』。コミュニケーションや教育や子どもについて興味があった。それは今でも変わらない。「いろいろな人と接して、教育や子どもについて論じる。行っていることは今と変わりません。対雲荘での経験が自分の原点だと思います」。



朝日放送のアナウンサー部長、現在の岡元さんだ。朝日放送には36人のアナウンサーがいるが、管理職として後進の育成にあたっ

ている。テレビ、ラジオ、イベント、そして最近ではwebでの原稿執筆等、アナウンサーの業務範囲も広がっているが、その人のすべてが晒されてしまうのがアナウンサー。「どんなものでも、強い光を浴び続けると朽ちてしまいます。どのような光を浴びていても、長い時間が経過しても、朽ちないように自分自身を新鮮に保つように指導しています」。

岡元さん自身も、美しい言葉、伝統文化、日々の挨拶、季節や自然の移ろい等に敏感であるように意識している。好きな言葉は、映画監督・小津安二郎さんの言葉。「何でもないことは流行に従う。重要なことは、道徳に従う。芸術に関することは、自分に従う」。アナウンサーとしてのあり方を考えていた時期に、この言葉に出会った。迷ったときは、今でもこの言葉に立ち返る。いつまでも新鮮であること。岡元さんは一本筋が通っていた。

取材  
メモ

学生時代は、映画に没頭していたオカゲンさん。年間150本もの映画を見ていたそうです。対雲荘での多様な方々との接点、そして映像メディアに向けられたエネルギー。これらがオカゲンさんの原点となっている気がしました。



文学部 教授／博士(理学)

## PROFILE

- 1984年 東京都立大学理学部地理学科 卒業
- 1986年 東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻修士課程 修了
- 1988年 東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻博士課程 中退
- 1988年 東京都立大学理学部助手
- 1992年 立命館大学文学部助教授
- 2002年 現職

●研究概要 GISを用いた都市システムに関する理論・計量的研究  
地理情報システム(GIS)を用いて複雑な都市システムをその構成要素である活動・部門、さらにその間の相互作用に分解し、それら要素間の関係を理論的に記述・説明・予測する。文部科学省が重点支援するグローバルCOEプログラムに選定された「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)の事務局長を担当。

●研究テーマ 地理情報システムと地理情報科学  
ジオデモグラフィクス研究  
デジタル・ミュージアムに関する研究

●所属学会 人文地理学会、地理情報システム学会、日本地理学会、立命館地理学会など



## 「バーチャル京都」で京町家、京文化を再現

文学部 **矢野桂司** 教授

国内外で先端的な地理情報科学を実践していると知られる矢野桂司教授の研究グループが2010年10月、約4万8000戸の京町家のデジタルデータベースを完成させた。調査した京町家を、最先端の地理情報システム(GIS: Geographical Information Systems)と仮想現実(バーチャル・リアリティ)技術を用いて、京都特有の町並み景観をコンピュータ上に再現することも行われ、今後、京町家を生かしたまちづくりに向けた重要な資料として周囲の期待は大きい。

### バーチャル空間で京都の町並みや文化を再現

「写真、地図・絵図、絵画など様々な『2次元の地理空間情報』をデジタル化し、現在のみならず、過去の街並みまでも仮想空間上に『3次元化』することに成功しています。空間次元に置かなかったものを地図化することで、これまで見えなかったものが見えてくる。そこに興味がある」。輝いた目で、こう切り出した。

GISという分野は、1980年代後半から研究が始まり、国内では阪神大震災以降から本格化。矢野教授はデジタル地図を使って歴史都市・京都の現在、過去、未来を体験するコンピュータ上の空間「バーチャル京都」を中心に、それに派生する研究を行っている。バーチャル京都では、古地図や写真、絵画などの情報をもとに平安、江戸、明治・大正、昭和、そして現在の京都のまちなみを再現したほか、五山送り火や祇園祭、歌舞伎などの京文化や芸能をコンピュータ上で楽しめる空間を実現した。以前には、阪神淡路大震災後のGISに関するプロジェクトなどに携わった経験もあり、歴史都市防災研究センターでのGISによる地理空間情報の基盤整備も行っている。

### 京町家GISデータベースの利活用の推進

京町家調査は京都市などと連携し、学生や市民ボランティアとチームを組んで4万7735戸を1軒ずつ1年半のフィールド調査を通して調べ上げた。各町家の建物の構造や建造状態、意匠など外観で分かる情報をGIS化し、写真とリンクさせた京町家GISデータベースを構築。さらに、バーチャル京都のベースとなる、レーザー測量技術を使って作成された3次元地図(MAPCUBEOR)と重ね合わせて、京町家を含むリアリティのあるバーチャル空間を作成した。このGISデータは汎用性が高く、例えば国勢調査のデータと併せてみると「高齢者の単身世帯が多くて、且つ町家が密集している所」といった応用も可能。矢野教授は「このデータを活用して、町家の流通や観光情報の提供などに活用できれば」と、新たな展開をにらんでいる。



さらに、祇園祭のデジタル・ミュージアムにも取り組み、既にコンピュータ上での山鉾巡行の可視化を行っている矢野教授だが、次のステップでは船形の鉾(船鉾)に乗り込んだバーチャル体験ができるプロジェクトにも着手。併せて、現在とは異なる昭和30年以前の巡行ルート再現しようと、バーチャル空間で戦前の三条通の復元を進めており、情報理工学部の先生方と連携しながら、高精細なマイクによる音拾い、震度センサーで揺れ具合を計測、鉾を曳いたルートをGPSで測定、様々な角度から見ることができるCG(コンピュータ・グラフィックス)の制作など、臨場感にこだわった祇園祭が体験できる仕組みを構築中だ。加えて、分解された船鉾の部材をレーザー計測し、その1つ1つのリスト化も現在行っている。

### 京都から世界へ情報発信

矢野グループは、国内では立命館しかできない研究を進めている。その研究内容の一端は、『Geographical Information Systems and Science (Third Edition: 2010) (Paul A. Longley, Michael F. Goodchild, David J. Maguire, and David W. Rhind eds.)』という海外で最もポピュラーなGISと地理情報科学の教科書に登場している。「研究者になった当初は、日本ではあまり紹介されていない『最先端』を論文にすることが魅力でした。しかし、最近は大規模なプロジェクトを立ち上げ、コーディネートすることにやりがいを感じます」と話し「そして、何より、私のチームの若手研究者が経験を積んでくれるのが嬉しい」と、父親のような表情で目を細める。研究者であると同時にやはり、教授なのだ。

しかし、最も興味のある研究テーマは、実は別にある。それは、社会経済的な特性を地図化すること。「例えば、携帯電話を通じての人の動きや、あるいは電話帳や地図を使って、どこにどんな名前が多いか、といったことを地図化することで、色んなことが判明します。また、一定の年数で分布図を見ることで、その動きについて分かりますよね。感染症の拡散具合、あるいは犯罪の発生場所など、地図化することで様々なことが見えてくるのです」。この研究を含め、日本のGISの研究は海外と比べて大幅に遅れを取っている。そのため、矢野教授は「世界に渡り合えるよう、国内のGIS研究を成長させること」を使命とする。ネタ元はどこにでもあるシンプルなもの。しかし、そのシンプルを融合し、豊富なアイデアで社会に便利な地理空間情報を作り込むのが「矢野流」だ。多忙な日々を送る中、唯一落ち着ける場所が銭湯だという。矢野教授のアイデアの原点は、ゆっくりと思いを凝らすことができるこの場所にあるのかもしれない。

### 町家調査の方法

京町家調査では京都市内を歩き、1軒ずつ調べ上げた。比較的「泥臭い」作業だが、矢野グループはこれをスマートに行っている。中二階や本二階などの各京町家の構造や周辺道路の状況、建物の特徴や建造状態など外観で分かる情報について、その場で写真撮影し、「モバイルGIS」という携帯端末に入力するといった具合に効率的な作業で調査。記録ミスがないように紙ベースでも記録している。こうした地道な活動により、大きな価値のある京町家GISデータベースが完成した。



調査時に撮影したグループ写真を並べてイラストに。この遊び心も「矢野流」



過去の祇園祭をバーチャルで再現



すっかりまちなみが変わった現代の祇園祭



## SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター  
075-465-7863

### 第16回アジア競技大会 レポート

#### 水泳部

#### シンクロ乾&小林ペア 銀メダルを獲得

(11月20日 中国・広州)

第16回アジア競技大会が開催され、シンクロナイズドスイミングのデュエットで、乾友紀子さん(経営2)、小林千紗さん(校友・2010年経済卒)組が中国に次ぐ銀メダルに輝いた。

また、チームとコンビネーションでも乾さん、小林さん、上南侑生さん(経営3)が出場し、銀メダルを獲得。この結果、日本はシンクロナイズドスイミング競技全種目でメダルを得た。



#### カヌー部

#### 渡邊大規さんが銅メダルを獲得!

(11月25日 中国広東国際ボートセンター)

第16回アジア競技大会男子カヤックペア1000mにおいて、渡邊大規さん(経営4)・水本圭治さん(大正大学)ペアが、銅メダルを獲得した。



#### 柔道部

#### 大野陽子さんが第26回全日本学生柔道 体重別選手権大会で柔道部初の優勝

(10月9・10日 東京・日本武道館)

全日本学生柔道体重別選手権大会は、各地区の予選を勝ち抜いた学生が体重別にて各階級の日本一を競う大会。

女子70kg級に出場した大野陽子さん(産社3)が見事優勝を飾った。本大会において立命館大学の選手では初優勝の快挙となった。



#### バドミントン部

#### 第61回全日本学生バドミントン 選手権大会で初の団体準優勝

(10月16日～21日 東京体育館)

全日本学生バドミントン選手権大会が開催され、立命館大学バドミントン部女子が団体戦で決勝に進出、初の準優勝を果たした。



#### 女子陸上競技部

#### 第28回全日本大学女子駅伝準優勝 立命館新記録を樹立

(10月24日 仙台市)

第28回全日本大学女子駅伝対抗選手権大会において、立命館大学は立命館新記録を樹



立する走りを見せたが、惜しくも前年と同じ2位でゴールし、準優勝となった。

#### 国際千葉駅伝に竹中理沙さん、 田中華絵さんが出場 日本学生選抜初優勝に貢献

(11月23日 千葉市)

国際千葉駅伝2010において日本学生選抜が初優勝した。

日本学生選抜として立命館大学から竹中理沙さん(経営3)と田中華絵さん(経済3)が出場。2区を走った竹中さんが区間2位と好走、6区の田中さんは日本代表チームとの激しいアンカー対決を制し、優勝に貢献した。

#### 剣道部

#### 剣道部男子 55年ぶり2度目の3位入賞

(10月31日 大阪府立体育館)

剣道部男子が全日本学生剣道優勝大会において団体戦で55年ぶり2度目の3位入賞に輝いた。



#### 弓道部

#### 弓道部男子 3年ぶり2度目の優勝

(11月21・22日 伊勢神宮弓道場)

第58回全日本学生弓道王座決定戦が開催され、弓道部男子が3年ぶり2度目の優勝を飾った。



#### サッカー部

#### 第88回関西学生サッカーリーグ 3位でインカレ出場へ

(11月28日 長居第2陸上競技場)

関西学生サッカー後期リーグ最終節の試合が行われ、立命館大学は近畿大学に2-0で快勝し

た。この勝利でリーグ戦3位をもぎとり、2年連続10回目の全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)出場を決めた。



#### 立命館守山高等学校

#### 立命館守山高校アメリカンフットボール部 パンサーズが初の全国大会出場!

(10月31日 王子スタジアム)

立命館守山高校アメリカンフットボール部が創部以来初となる全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会出場を果たした。

9月1日(水)から開催された県予選の決勝で虎姫高校に28対0で見事勝利を収め、全国大会出場を決定。全国大会では1回戦で大阪産業大学附属高校に3-34で敗れた。



#### 立命館宇治高等学校

#### 陸上競技部 京都府高等学校駅伝競走大会 23年連続25回目の優勝

(11月7日 京都府立丹波自然運動公園)

京都府高等学校駅伝競走大会が開催され、女子の部で立命館宇治高校が23年連続25回目の優勝を飾った。この結果、12月26日に京都市で開催される女子第22回全国高等学校駅伝競走大会に出場する。



## CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス  
075-465-8167

#### 応援団吹奏楽部

#### 応援団吹奏楽部が銀賞を獲得

(10月23日 愛媛県民文化会館(ひめぎんホール))

第58回全日本吹奏楽コンクール大学の部が開催され、応援団吹奏楽部が銀賞(2年連続・通算5回目)を獲得した。



#### R.D.C.

#### R.D.C.(立命館ダンスサークル) 草津市常盤小学校3年生を迎え交流活動

(10月27日 びわこ・くさつキャンパス)

R.D.C.(立命館ダンスサークル)の学生が草津市立常盤小学校3年生の児童37名を迎え、「ダンス体験」の交流活動を行った。

児童たちは、学生たちの丁寧な指導のもと、ダンスの基本的な動きを体験。流れる音楽を良く聞いてリズムを取りながら練習を繰り返すことで、交流が終わる頃には、一連の動作をつなげて踊れるようになった。

R.D.C.は、11月の末にもリツクラで(\*)小学校を訪問し、ダンスを通じて交流を行った。

※「リツクラ」とは「Ritsumeikan Class」の略で、立命館大学生が、地域の学校に向向き、課外活動を通じて交流する取り組みの名称



## 学生のエネルギーが爆発! 2010年度立命館大学 学園祭を開催

11月6日(土)、7日(日)の2日間、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、11月13日(土)、14日(日)、衣笠キャンパスにて2010年度立命館大学学園祭を開催した。

今年の学園祭のテーマは「110℃」。個々の学生のエネルギーを集約させた強い力の爆発性と、そこから生まれる融和や変化を表し、また立命館学園創立110周年に合わせてより広く立命館に関わる人への認知やアイデンティティの定着を目指す意味合いがテーマに込められている。

両キャンパスともに多くの模擬店やフリーマーケットが立ち並び、来場者は思い思いの形で学園祭を楽しんでいた。模擬店ではエコ活動として毎年恒例のリユース食器導入に加え、ゴミを細かく分類する取り組みを実施し、環境への配慮を心掛けた。



毎年恒例、RWFによるプロレス興行は地域の方々に大人気。笑いとお声が上がっていました! (BKC)



リユース食器を導入し、16種類にゴミを分別。エコスタッフたちが活躍。(衣笠)

学園の取り組み

立命館新総長に川口清史教授が再選

学校法人立命館は、現・川口清史総長の任期が、2010年12月末日をもって満了となることに伴い、総長選挙を実施し、次期総長に川口現総長を再選いたしました。任期は2011年1月1日より4年間となります。

立命館大学新キャンパスを大阪府茨木市に開設

立命館学園では、2020年までを視野に入れた将来構想づくりを進めています。その目標である教育・研究の質向上を促進するキャンパス環境を実現するために、大阪府茨木市に新キャンパスを開設することを決定しました(2015年開設予定)。新キャンパス開設を契機に学生の学びと成長にふさわしい、ゆとりある空間の確保、施設設備の充実を、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスを含むすべてのキャンパスで進めています。



握手する野村宣一・茨木市長と川口清史・立命館総長

インド・ニューデリーに「立命館インドオフィス」を開設

立命館大学は、11月15日(月)にインド・ニューデリーに立命館インドオフィスを開設いたしました。

このオフィスは、文部科学省の国際化拠点整備事業(グローバル30)における「海外大学共同利用事務所」に指定されており、採択校がインドにおいて行う広報活動の支援や説明会の開催、テレビ会議システムを使用した入学審査時の面接実施などに利用される予定です。

また、立命館大学の現地の学校への広報活動やネットワークの形成も行っています。



映像研究科が設置認可を受けました

2011年4月に開設を予定している映像研究科が文部科学省より設置認可を受けました。

近年、多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に特化した高い能力が求められます。映像研究科は、立命館大学が総合大学であることのメリットを活かした幅広い教養と、映像の制作(作品制作にとどまらず、開発・活用を含む)に関連する技能・技術・分析法の修得により、こうした能力を養成することを目指します。

研究科概要

学位名称: 修士(映像)

定員: 入学定員10名(収容定員20名)

設置場所: 衣笠キャンパス

2012年度に文学部が変わります

文学部は2012年度、新たに「学域」を設けた学部(カリキュラム)改革を実施します。

「学域」とは、複数の専攻を束ねて構成する(\*)新たな初年次教育の枠組みで、2年生以降に所属する「専攻」で高度な学問を学ぶための準備を丁寧に行う場として設計されています。これまで「専攻」ごとに設定していた入試の募集人数もこの「学域」単位で設定することになり、ここでの初年次教育を通じて2年生以降に所属する「専攻」を決定します。

※ただし、心理学専攻だけは単独で学域を構成します。

文化遺産の保護と継承、創造に取り組む「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」発足

本学が寺社や行政などと連携して京都の文化遺産の保護と継承、創造に取り組む「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」が設立されました。

京都には17カ所の世界文化遺産をはじめ、国宝や重要文化財が数多く存在していますが、現状は個別の所有者による公開や維持管理の努力にとどまっています。この取り組みは文化財の所有者が相互に連携をはかりながら百年先を見据え、歴史や伝統文化を次世代に継承することを目的としています。

10月21日(木)には朱雀キャンパスで発足記念式典が開催され、前ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏が記念講演、約350名が参加しました。プラットフォームは土岐憲三立命館大学教授・歴史都市防災研究センター長が副会長に、門川大作京都市長と川口清史立命館総長が理事にそれぞれ就任しています。



APEC開催記念国際シンポジウム～アジアは世界経済を救えるか～開催

11月4日(木)、衣笠キャンパス創思館1Fカンファレンスルームにて、「APEC開催記念国際シンポジウム～アジアは世界経済を救える



か～」が開催されました。

イベントは日米研究インスティテュート(USJI: U.S.-JAPAN Research Institute)が主催し、京都大学、慶応義塾大学、東京大学、早稲田大学、立命館大学の後援のもと実施されました。

今回のシンポジウムは京都で開催されたAPEC財務大臣会合を機に、韓国の元外務大臣のハン・スンジュ氏をはじめ、民間企業、国内外の大学からパネリストを招き、アジア太平洋地域経済の問題提起、解決策の提言を行なうために議論を展開。会場には、研究者のほか、本学学生、留学生など多数が来場しました。

教育・研究の成果

レアメタルを用いないクロスカップリング反応による導電性ポリマーを開発  
—産学連携体制を確立 2011年度実用化予定—

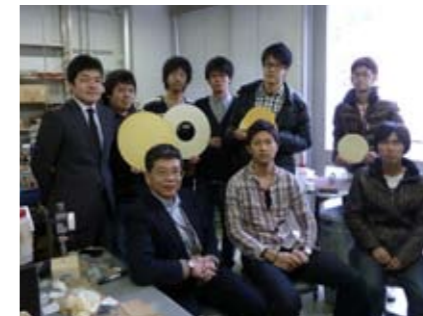


今年のノーベル化学賞に決まった「クロスカップリング反応」を希少金属(レアメタル)のパラジウムではなく、ヨウ素反応剤を使って実現する技術を北泰行・薬学部教授の研究グループが開発しました。

希少金属のパラジウムは入手に制約がありますが、日本での生産量が世界で2番目に多いヨウ素を使えば、製造コストの大幅な削減が見込まれます。

本方法では従来の方法では難しかった炭素の代わりに窒素や硫黄を含む複素環化合物同士のクロスカップリングも可能となるため、種々の有用な導電性ポリマーの新素材として今後が期待されます。

希少金属・セリウムのガラス研磨における使用量低減技術を開発



谷教授(下段左)と研究室のメンバー

谷 泰弘・理工学部教授の研究グループが、ガラス研磨において研磨パッド材質に新たにエポキシ樹脂を適用する技術を開発しました。これによって、従来研磨の2倍を超える驚くべき研磨能率が達成されるのみならず、ガラスの鏡面研磨材として使用されている希少金属セリウムの使用量を、低減させることができます。

今回の成果により研磨コストの大幅な低減につながる事が期待されます。

三原久明・生命科学部准教授が「平成22年度日本生化学会奨励賞」を受賞

2010年10月27日(水)、三原久明・生命科学部准教授が「平成22年度日本生化学会奨励賞」を受賞しました。この賞は、若手研究者を対象として、生化学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、なお将来の発展を期待しうるもの5名以内に贈られる賞です。三原准教授は、本研究分野のその後の世界的な発展の礎となっている点で高い評価を受けており、今後の更なる活躍が期待されます。



大学キャンパスの活性化を目的としたエリアワンセグ実験放送局「R-one.TV(アールワンティービー)」が開局

大学キャンパスにおける総合的なワンセグ放送実験を目的とする「R-one.TV」を開局しました。

「R-one.TV」では、映像学部の産学公連携型正課授業である「企業連携プログラム」の受講生が中心となり、連携企業の協力のもと、実験放送設備の設置からコンテンツの制作、編成、配信を行うとともに、視聴者アンケートを実施して、ワンセグ自体の利便性や課題、コンテンツの視聴者効果を測定するための実験放送を行います。また、大学としても、今後の授業配信を含む教育・研究への活用、キャンパス内広報、学生への緊急連絡や各種啓蒙のメディア、学生の自主活動を支援するメディアとしての新しい可能性をさぐる機会として位置づけています。



R-one.TVの詳細はこちら  
<http://www.r-one.from.tv/>

雑誌「AERA」にロボット科学をリードする立命館大学の研究者たちが登場

2009年度よりスタートした「AERA」(朝日新聞社出版)研究者シリーズは「未来へのおくりもの」と題し、19名の立命館大学で活躍する研究者を紹介しました。

今回は、「AERA」研究者シリーズ第2弾として、12月6日(月)から2月14日(月)までの間に発売される「AERA」の全10回に、ロボット科学の分野で活躍する研究者が登場します。ロボットが変える世界を紹介した内容となっています。ぜひご一読ください。



学生の活躍

学生団体「Innovision」が  
ビジネスプランコンテスト「Global Tic 2010」の  
テクノロジー部門で初優勝!

11月14日(日)から17日(水)まで、台湾で行われたビジネスプランコンテスト「Global Tic 2010」にて、起業家を目指す学生団体「Innovision」が、テクノロジー部門で初優勝を果たしました。

この大会は、台湾最大規模のビジネスプランコンテストの1つで、世界中で起業に関心のある学生やアントレプレナー教育を受講す



優勝した「Innovision」のメンバー

る学生が参加し、ビジネスプランを競う大会。2010年度も各国・地域での予選を勝ち抜いた15の代表チームが出場。参加者の9割以上が学生で、日本からは代表として立命館大学、慶應義塾大学から各1チームが参加しました。

今回「Innovision」のメンバーが提案したのは、インターネット上でデジタル名刺を管理するビジネスプランで、斬新なアイデアと実用的な点が評価され優勝を掴みました。

地域活性化ボランティア  
「時代祭応援プロジェクト」受講生が  
時代祭に参加

10月22日(金)、京都市内にて行われた「時代祭」に、地域活性化ボランティア「時代祭応援プロジェクト\*」の受講生が参加しました。

受講生は衣装の管理や鼓笛練習の受付、また、時代祭への関心を高めるためのワークショップや展示会を開催するなど、祭事を支える裏方として活動を行ってきました。

当日は、受講生17名と教職員2名が行列に



参加。受講生は維新勤王隊の隊士とともに都大路を練り歩きました。

※地域活性化ボランティア「時代祭応援プロジェクト」は、立命館大学サービスラーニングセンターと平安神宮、平安講社第八社が協力して行っているサービスラーニング科目の1つ。

2010年度各種難関試験合格者

司法試験	新司法試験47名・旧司法試験3名
公認会計士試験	29名(12月3日現在)
国家公務員I種採用試験	13名
国家公務員II種採用試験	138名
家庭裁判所調査官補1種採用試験	1名
弁理士試験	9名

立命館創始140年・学園創立110周年・APU開学10周年記念企画

2010年は、西園寺公望が私塾「立命館」を創始して140年、中川小十郎が立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を設立して110周年、立命館アジア太平洋大学(APU)の設立から10周年を迎える年となりました。立命館では、この2010年をきっかけに、学生・生徒・児童の成長と満足を実現し、社会からの共感と支持を高め、立命館を取りまくすべての方に「立命館でよかった」と実感してもらうことを目的として、立命館創立110周年記念企画を行いました。

今回は、初めての取り組みとなる記念企画の公募も行い、多くの提案の中から、110周年に相応しい学生公募企画14件、全体企画と教職員企画32件が実施されました。ここでは一部の実施企画をご紹介します。



学園創立110周年学生企画 実施団体：環シスごみ騒動

環シスごみ騒動「BKCごみ組成・分別率調査」実施

びわこ・くさつキャンパス(BKC)では、毎日約260袋(3トン相当)のごみが排出されていますが、分別が徹底されておらず、クレオテック職員が再分別を行っています。そういった現状に環境システム工学科4回生を中心とした有志団体「環シスごみ騒動」が問題意識を持ち、『ごみ組成・成分率調査』を実施しました。今回のごみ組成・分別率調査は、ごみの組成を詳しく調べ、ごみの減量方法を考える際のベースにすることを目的としています。



当日は、26名が作業に参加し、リヤカーをひいてキャンパス内のごみを収集し、35種類に分類してごみの種類、量を調査しました。詳しい分析を行い、結果をまとめ、学園祭では環境イラスト展を実施、今後はキャンパス内の分別を促進するための、ゴミ箱分別ラベルを作成する予定です。

実施団体：立命館中学校・高等学校

立命館高校においてRits Super Science Fair(RSSF)2010開催

11月2日(火)から6日(土)、学園創立110周年記念企画として、今年で8回目となるRSSFがびわこ・くさつキャンパス(BKC)と深草キャンパスで開催されました。今回は海外18の国・地域から31校・約120名、国内15校の高校生が参加しました。

5日間のRSSFの取り組みの中心となる生徒の科学研究発表では、口頭発表42本、ポスター発表222本が行われました。立命館高校は、数学、物理、生物、環境の分野での4本の口頭発表に加え、75本のポスター発表に取り組みました。また、立命館大学や立命館高校の教員、海外から参加の先生方による国や学校の枠を超えたチームが、ものづくり等のアクティビティ(Science Zone)、科学を楽しく学ぶ講座(Science World)を実施。さらには、京都の各企業のご協力による企業見学や様々な文化交流が行われ、これまで以上に充実した内容となりました。



110周年記念CMが完成! 実施団体：GREENS

映像制作サークルGREENS、立命館大学教職員、広告業界の第一線で活躍するOBが連携し、各年代を超えた立命館卒業生・在校生が一体となってWeb上で閲覧可能なCMを作り上げました。CMは学園創立110周年をリレーのボタンで表現したものになっています。

※CMは立命館ホームページ内の「立命館学園創立110周年ページ」(<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/110th/home/>)で公開しています。



立命館学園創立110周年記念ホームページ

今後実施予定の立命館学園創立110周年企画

企画名	実施団体	実施日程	概要
ダンスマイスタイル	舞スタイル	2010年12月26日(日)	①子どもたちに新たな出会いの場を提供する。また、地域に住む高齢者も招待することで②学園や立命館大学生と地域とのつながりだけでなく、地域間のつながりを持つ。③ダンスを通じて周りの人たちに感謝することやお互いを尊重することの大切さを伝える。
大学生による「京都の魅力」発見・発信プロジェクト	立命館大学外国人観光プロジェクト	<フォーラム> 2011年1月13日(木)	大学生と留学生が協力して京都を学び、その魅力を見出す。そして見出した魅力を、京都観光情報として多言語でインターネット公開することや、京都観光に関する学生シンポジウムの開催、観光フォーラムへの参加を通じて発信することを目指す。
高校生国際フォーラム	立命館宇治中学校・高校事務室	2011年 2月18日(金)～22日(火)	海外から研究者や高校生を招き、「ポジティブなグローバル化」に焦点をあてた国際フォーラムを実施。
国際シンポジウム「東アジアにおける法学教育の現状と課題～連携を目指して」	法学部	2011年2月26日(土)	「アジアにおける地域協働と革新」をテーマに国際会議を開催。4カ国の大学と連携で行い、院生教育の国際的連携という他に例を見ない取り組みとして実施。
東アジアの市民社会研究プラットフォーム形成準備のための国際シンポジウム	衣笠総合研究機構/人文科学研究所(人文社会リサーチオフィス)	2011年 3月25日(金)～26日(土)	東アジアの市民社会研究のネットワーク形成をはかるため、中国・台湾・韓国の研究者を集め、本学でシンポジウムを開催する。本学を日本の研究拠点として、位置づける。

NEW

立命館プラザ福岡リニューアルオープン!!

2010年10月より、天神・イズム8階にリニューアルオープン。土・日曜日にも利用可能です。大学や入試に関するパンフレットが充実、相談もできます。ただいま、2011年度一般入試の願書を無料配布中です。



新住所：〒810-0001 福岡市中央区天神1-7-11 イズム8F  
電話番号：092-788-1201  
開室時間：水曜～日曜日 11:00～19:00 ※月曜・火曜日・イズム休館日休み

日本学生支援機構(旧 日本育英会)奨学金  
返還中のみなさまへ  
～お知らせとお願い～

●返還は滞りなく行われていますか?

引き落とし口座の残高不足や住所変更による振込み用紙の不着などで、延滞となっておられる場合があります。今一度、ご確認をお願いします。延滞される卒業生の方が多くなると、在学生の採用数が削減され、後輩たちの学業継続に影響がおよぶ場合があります。

●在学中・入学準備中・経済困難・病気・失業などにより  
返還が困難となられた場合

「返還期限猶予」の制度があります。ご自身でお早めにお手続きをお願いします。延滞されますと、延滞金が課されますのでご注意ください。

詳しくは以下をご参照ください。

HP [http://www.jasso.go.jp/houmon\\_menu/henkan\\_index.html](http://www.jasso.go.jp/houmon_menu/henkan_index.html)  
電話 日本学生支援機構奨学金返還相談センター：0570-03-7240

立命館大学の貸与奨学金の返還状況も併せてお確かめください。  
立命館大学の貸与奨学金返還についてのお問い合わせは以下までお願いします。

学生オフィス(衣笠)  
075-465-8168(土・日・祝日を除く 10:00—17:00)

校友会・グループ インフォメーション			
			※（職）は職場電話番号
校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
浜松会	1/16(日) 18:20	ホテルコンコルド浜松	船越 弘光 (職)053(437)2073
尼崎市役所比叡会	1/19(水) 13:30	ホテルニューアルカイク	西野 俊哉 06(6489)6774
建立会	1/22(土) 14:00	ヴィアーレ大阪2階	原田 直樹 090(8933)7108
北海道校友会総会	1/29(土) 16:30	札幌パークホテル	中川 均 011(251)3373
姫路立命会	2/5(土) 15:00	まねき食品本社ビル	尾上 誠一 (職)079(288)3811
石崎祥之先生教授就任祝賀パーティー兼同窓会	2/5(土) 12:00	ハイアットリージェンシー京都	田邊 裕 090(9213)3398
ウリ同窓会総会・懇親会	6/4(日) 未定	朱雀キャンパス大講義室	申 俊雨 06(6352)1166
2011年度大阪校友会年次大会	7/8(金) 18:00	スイスホテル南海大阪	大阪オフィス 06(6201)3610
オール立命館校友会大会2011 IN 京都	10/29(土) 未定	ホテルグランヴィア京都ほか	校友会本部事務局 075(813)8216

校友消息（判明分）		
<b>就任</b>	川村智通氏（'66法） 元和歌山中央郵便局長	伊熊正信氏（'61経済） 消防功労
加藤敏雄氏（'71経営） 北九州金融準備（株） 代表取締役社長	<input type="checkbox"/> 旭日双光章 木村 滋氏（'57理工） 金工学園理事長	柴田 武氏（'63法） 警察功労
太田明弘氏（'76経済） （学）此花学院 理事長	宇多雅詩氏（'65法） 京都府警備業協会長	高山幸輝氏（'63経済） 警察功労
山本晃則氏（'77経済） （株）キーエンス 代表取締役社長	<input type="checkbox"/> 瑞宝双光章 中野満輝氏（'47文文） 京都府刑務所教戒師	加嶋良隆氏（'63文） 警察功労
<b>訃報</b>	横山 真氏（'56経済） 金公立育学校長	神谷熊太郎氏（'64法） 警察功労
黒田寿紀氏 （本学名誉教授） 11月25日ご逝去。87歳	金子昭好氏（'57法） 元長田郵便局長	林喜七郎氏（'65法） 消防功労
小野一郎氏 （本学名誉教授） 11月2日ご逝去。82歳	清水敏昭氏（'57経済） 元姫路市消防正監	<input type="checkbox"/> 瑞宝単光章 奥村長次氏（'60経済） 消防功労
<b>叙勲2010年秋</b>	小林祥造氏（'59法） 保護司	森 彪氏（'63経済） 警察功労
<input type="checkbox"/> 瑞宝中綬章	尾崎文男氏（'60法） 元東京矯正管区長	内原 徹氏（'64法） 警察功労
福島照男氏（'62法）	<input type="checkbox"/> 瑞宝小綬章	小山憲三氏（'65法） 警察功労
市場茂信氏（'53理工） 元公立高校長	杉山吉秋氏（'75法） 「甲寿園」介護支援専門員係長	巽 久直氏（'70法） 警察功労
平尾良一氏（'54理工） 元京都市消防正監	<b>危険業務従事者叙勲2010年秋</b>	<b>褒章2010年秋</b>
宝壁 茂氏（'58法） 元田辺地方振興局長	<input type="checkbox"/> 瑞宝双光章	<input type="checkbox"/> 藍綬褒章
南浦純一郎氏（'61法） 元奈良県企画部長	梅原 昇氏（'55法） 警察功労	吉川宣治氏（'72経済） 元京都府印刷工業組合理事長
	北本幸誠氏（'59経済） 消防功労	山田訓史氏（'73経済） 清水銀行頭取
	松本一彦氏（'61法） 消防功労	

## 立命館大学国際平和ミュージアム企画展示のご案内

立命館大学国際平和ミュージアムでは、来年1月から3月にかけて、下記の展示を開催いたします。

第61回ミニ企画展示
<p><b>廃棄された公文書からみた徴兵の実態</b></p> <p>—大正年間友禅図案裏打ち文書の発見—</p> <p>京都にも馴染みの深い友禅。その図案の裏打ち紙の中には、数多くの公文書が含まれていました。その中でも、郡役所、陸軍省関係の兵事資料は希少で、今回はそれらの一部を展示します。これらの史料は、郡役所が果たした徴兵に関わる役割を示すとともに、「徴兵猶予願」の件数から徴兵忌避の実態が窺えるなど、大正時代の徴兵制を考える上で、重要な意味をもちます。</p>

開催日程
<p><b>第61回</b> ミニ企画展示</p> <p>廃棄された公文書からみた徴兵の実態 -大正年間友禅図案裏打ち文書の発見- 2011年1月12日(水)～1月30日(日)</p>
<p><b>第62回</b> ミニ企画展示</p> <p>資料で見る京都の観光と絵葉書(仮) 2011年2月13日(日)～3月31日(木)</p>

第62回ミニ企画展示
<p>第6回ミュージアムロード参加企画</p> <p><b>資料で見る京都の観光と絵葉書(仮)</b></p> <p>現在の京都の町並みや、観光都市としての京都の姿は、20世紀初頭には出来あがっていました。当時の絵葉書や写真、ポスターなどを通して、その様子を紹介します。この時期の京都は現在よりも映画産業が盛んであり、軍隊との関連も深いものでした。こうした現在とは異なる特色や、総力戦により京都が受けた影響にも触れ、レトロな京都の姿を紹介すると同時に、京都と戦争の関係について考える機会になればと思います。</p>

開催時間
<p>午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)</p>
観覧料
<p>一般400円(350円) /中・高生300円(250円) /小学生200円(150円) ( )は20名以上の団体料金 障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料</p>

## 「出会いが糧」。

表紙高砂さんの取材は、台風の余波を受けた荒波の五島列島小値賀島訪問となりました。佐世保17時前に乗船、船中は高波に揺られそこら中で鳴咽を聞く、私も軽い船酔い。翌日取材、ところが朝から波浪警報発令で全船欠航の町内アナウンス。「どうしよう!あかんで!」福岡での全国校友会大会撮影を翌日に控え是が非でも本日中に海を渡らねばならない、悩む時間も無く高砂さんの緊急手配で小型船確保。

撮影時間は30分、午前11時小型船に乗って隣の島へ、そこから大型のフェリーで長崎へ、あっという間の一泊二日、写真家の眼は高砂さんの真贋は捉えた。満良く運良く全国校友会大会に参加、撮影無事終了(安堵)。243号は学園創立110周年を記念する情報満載の号になりました。

制作に係わって17年、新しい平成卒世代を横軸でつなぎ、諸先輩と現役学生を縦軸に「繋げる」使命を我が事としている。九州開催校友会大会は新しい繋がりが歩みだすきっかけになりました。証のキーワードは女性校友です。11月27日、東京校友会と経済学部同窓会合同企画に参加。現場に出向けばまた新しい出会いの渦に感激!また新しい転換点に出くわしている。 (オ)

## この

夏に一ヶ月の長期北海道旅行に行った学生さんから聞いた話。無銭旅行の味方は数百円で宿泊できる「ライダーハウス」であるとか。だいたいが大広間に雑魚寝だそうですが、自炊ができる場所もあり、見ず知らずの旅人同士が自然体で触れ合うことができる場だそうです。

私の学生時代、こういう場はユースホステルの独断場でしたが、今はペンション化しているところが多いようで、ライダーハウスにその場が移ったようです。いつの時代でも人のふれあいが求められているのだな、と感じました。

この校友会報「りつめい」も、共有した時間を過ごした立命館での仲間や先生とのふれあいを思い出すきっかけになればうれしいと思います。これから寒さも本番となりますので、校友の皆様もどうぞご自愛下さい。

(西村仁)

## 「教職

協働」—私が10年前に立命館職員として就職した頃、先輩職員の方々からよく聞いた言葉。今では使い慣れた日常用語となっています。「教員」と「職員」が、それぞれの役割のもと、お互い協力しあって働くという意味で、大学特有の言葉といえるでしょう。

他大学の職員と情報交換する機会がときどきあります。立命館より他大学の方が進んでいると私が多々思うのと同じ様に、外の方が立命館を見たとき、事業の斬新さ、教育プログラムの豊富さ、経営力の強さと併せて、「教職協働」を立命館の評価点として挙げてくださる方が多いことに最近気づきました。これは脈々と諸先輩方から受け継がれてきた立命館のスタイルが、今も根付いているからでしょう。

現在、日本の四年制大学の約4割が入学定員を充足していない厳しい現実があります。その中で立命館が「プラス」を伸ばし、そうでない部分を「教職協働」で取り組めば、さらに魅力ある大学になるはず。「教職協働」は、言い換えれば「チームワーク」のこと。どの組織にも共通する当たり前で、ありがたひな言葉ですが、チームワークが生み出す力をあらためて確信して、日々精進したいと思うこの頃です。

(加藤良直)

## 裁判

は裁判員制度が始まってから1年以上たち、来年の選任候補者のところへ通知が送られてくる時期になってきました。統計上では、学校生活をともに過ごした小学校から大学までのどれかの学年の同じクラスの人のうちの一人ぐらいは、生涯で一度は裁判員に該当する、と言われておりますので、皆さんの中にも通知を受け取られる方がおられるかもしれません。

この間、死刑判決を選択する事件もあり、うち一つは少年が被告人となっていました。何ら訓練を受けず、心の準備もなかった一市民である裁判員の心理的負担は、想像を絶するものがあります。

裁判員の精神的ケアについて、制度的にも十分な手当を施すことはもちろん必要ですが、そもそも死刑すらあり得る量刑まで、素人に担当させることが果たしてよかったのか、今一度考えさせられる今日この頃です。

(GEORGE)

## 堂本印象美術館企画展のご案内

企画展
<p>「人を描くー情景から造形へー」</p> <p>およそ半世紀にわたる画業において様々な画風を変貌させた堂本印象。花鳥画をはじめ、風景画、人物画、仏画など日本の伝統的なモチーフを描く一方、戦後には抽象画へと華麗な展開を遂げることで世間を驚かせました。本展では、実在した人物像からモチーフとしての人体表現にいたるまで、印象が描いた「人」の多彩な表現に迫ります。自らのイメージを表現するために、生涯にわたって様々な形態を求めた画家の側面を、描かれた「人」を通して紹介します。</p>

会期
<p>2010年12月3日(金)～2011年5月29日(日) *会期中、一部の作品を入れ替えます 前期：12月3日(金)～3月6日(日) 後期：3月8日(火)～5月29日(日)</p>
土曜美術茶論
<p>12月11日(土) 「人」を描く」島田康寛(当館館長)</p>

開催時間
<p>午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)</p>
観覧料
<p>一般500円(400円) /高校・大学生400円(320円) /小・中学生200円(160円) ( )は20名以上の団体料金 65歳以上の方(要証明)および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料</p>



りつめい No.243 / 2011年1月号

発行所 / 立命館大学校友会 / 半4回発行

発行人 / 山中 謙

編集人 / 中村和雄

〒604-8520 京都市中京区西ノ京米善町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumeijp>

E-mail : [alumni@st.ritsumeijp](mailto:alumni@st.ritsumeijp)